

# 熱海市温泉事業のあらまし



令和4年度版



多賀加温室 更新前  
(平成元年 築造)



多賀加温室 更新後  
(令和4年 更新)

熱海市 公営企業部 水道温泉課

# 目 次

第1章	熱海市の概要	1
第2章	温泉について	
	1) 温泉とは	2
	2) 療養泉の泉質の分類	3
	3) 温泉のメカニズム	4
	4) 温泉及び温泉地の効果	4
	5) 熱海の温泉	5
	6) 熱海温泉の泉質	6
	7) 熱海温泉組合と湯前神社秋季例大祭	7
	8) 熱海七湯について	8
第3章	市営温泉の概要	
	1) 市営温泉の沿革	12
	2) 供給区分	12
	3) 供給区域と受給資格	12
	4) その他	13
	【参考】温泉供給区域図	14
第4章	市営温泉施設の概要	
	1) 温泉源地一覧	17
	2) 貯湯槽一覧	19
	3) 動力室・加温室(動力)一覧	20
	4) 主要配管系統図	23
第5章	温泉事業統計	
	1) 温泉料金の変遷	25
	2) 供給加入金の変遷	29
	3) 月別温泉使用量の推移	30
	4) 地区別及び用途別使用量	31
第6章	財務状況	
	1) 比較損益計算書	32
	2) 性質別費用構成表	32
	3) 資本的収支計算書	34
	4) 比較貸借対照表	36
	5) 財務分析比較表	38
	6) 業務実績表	39
第7章	組織及び職員	
	1) 職員機構図	40

# 第1章 熱海市の概要

熱海市は伊豆半島の東側基部に位置し、前面は相模湾に臨み、背後には箱根から伊豆へ伸びる火山帯の山稜を背負った日本屈指の大温泉郷です。“太平洋に「出ず」る伊豆半島は湯出ずる国”ともいわれ、第四世紀洪積世（百万年前）から現世にかけての火山活動により、富士山・愛鷹山・箱根山とともに、伊豆においては、天城山等の火山が形成されました。そしてカルデラ状を構成する熱海火山の陥落した中心部に集落が発生し、世界にも類を見ない都市が形造られました。

熱海の四大温泉として、風光明媚な自然、歴史・文化の薫り漂う湯の街熱海が凝縮された『熱海温泉』、波静かで遠浅の海が続く海岸沿いの温泉郷『南熱海温泉』、古来より海岸の洞窟から温泉が湧き、名湯で知られる走り湯に代表される『伊豆山温泉』、山裾深く入った山峡にも落ち着いた旅館が立ち並ぶ『伊豆湯河原温泉』（泉地区）があります。これらの温泉地は、富士・箱根・伊豆を結ぶ観光レクリエーションの中核基地としての位置を占め、豊かに湧きだす天然の温泉と四季温暖の気候条件に恵まれた常春の地として、伝統ある観光温泉都市を形成しています。

## ●熱海市の位置

方位	地名	経緯度
極東	初島	東経 139° 10′
極西	和田山	東経 139° 01′
極南	下多賀	北緯 35° 01′
極北	泉	北緯 35° 09′

## ●熱海市の面積・広ぼう（令和5年全国都道府県市区町村別面積調）

総面積	61.77km <sup>2</sup>
広ぼう	東西 7.52km
	南北 13.90km

## ●熱海市の人口（令和4年3月31日現在）

男性	15,550人
女性	18,751人
合計	34,301人

## 第2章 温泉について

### 1) 温泉とは

わが国では、大変古くから温泉が利用されてきました。種々の伝説はもちろん、歴史的な文献である古事記、日本書紀、そして各地の風土記や絵図等、随所に温泉の利用のされ方などが記されています。また、温泉めぐり（温泉浴）が体に良いことも昔から知られ、「湯治」という温泉療養は、江戸時代の医学者、貝原益軒の書にもみられます（『養生訓』巻第五、洗浴）。

ところで、「温泉」というものは何によって定義され、その基準がどのようなものかご存じでしょうか。昔は、温泉の基準温度はその土地の平均気温より高い温度とする考え方が有力で、基準温度は地方により異なっていました。このため、我が国では、昭和23年に制定された温泉法で地中から湧出する際の温度が摂氏25度以上のもの。また摂氏25度未満であっても下記物質をいずれかひとつ以上含有していれば温泉（鉱泉）と定められました。

日本は世界有数の温泉大国で、その中でも静岡県は筆頭格です。静岡県の全温泉の約3分の1は、泉温が摂氏25度以上で温泉水1kg中の含有成分が1,000mgに満たない「単純温泉」が占めています。

#### 温泉法（平成23年8月30日改正）

##### 第2条による規定

- 1) 地中から湧出すること
- 2) 温水、鉱泉水及び水蒸気その他のガス状のもの（炭化水素を主成分とする天然ガスを除く）
- 3) 湧出温度が摂氏25度以上のもの、又は次にあげる物質を規定値いずれか一つ以上（含有量・温泉水1kg中）含むこと

物質名	含有量（1Kg中）	物質名	含有量（1Kg中）
・水素イオン	1mg以上	・リチウムイオン	1mg以上
・メタほう酸	5mg以上	・沃素イオン	1mg以上
・臭素イオン	5mg以上	・バリウムイオン	5mg以上
・遊離炭酸	250mg以上	・ヒドロヒ酸イオン	1.3mg以上
・総硫黄	1mg以上	・ふっ素イオン	2mg以上
・メタ亜ひ酸	1mg以上	・第一マンガンイオン	10mg以上
・ラジウム塩	1億分の1mg以上	・重炭酸そうだ	340mg以上
・ラドン	5.5マッハ単位以上	・メタけい酸	50mg以上
・フェロ又はフェリイオン	10mg以上	・ストロンチウムイオン	10mg以上
・ガス性のものを除く 溶存物質	総量1,000mg以上		

したがって ①摂氏25度以上の温度があれば無条件で温泉  
②摂氏25度未満でも上記の物質を規定量含有していれば温泉となります。

## 2) 療養泉の泉質の分類

温泉の泉質名称は、下記に掲げる療養泉（鉱泉のうち、特に治療の目的に供し得るもの）の定義を満たした温泉だけに命名されます。

### 療養泉の定義

- 温度(源泉から採取されるとき温度)摂氏25度以上
- 物質 (以下に掲げるもののうち、いずれかひとつ)

物質名	含有量 (1Kg中)
① 溶存物質 (ガス性のものを除く)	総量1,000mg以上
② 遊離二酸化炭酸 (CO <sub>2</sub> )	1,000mg以上
③ 総鉄イオン (Fe <sup>2+</sup> + Fe <sup>3+</sup> )	20mg以上
④ 水素イオン (H <sup>+</sup> )	1mg以上
⑤ よう化物イオン (I <sup>-</sup> )	10mg以上
⑥ 総硫黄 (S)	2mg以上
⑦ ラドン (Rn)	8.25マッヘ単位以上

泉質は、含有する物質によって次の三つに大きく分類されます。

### 単純温泉

含有物質：① 溶存物質 (ガス性のものを除く) が 1,000mg/kg未満  
泉 温：25度以上  
泉質名称：単純温泉、アルカリ性単純温泉 (pH値が8.5以上ある場合)

### 塩類泉

含有物質：① 溶存物質 (ガス性のものを除く) が 1,000mg/kg以上  
泉 温：規定なし  
泉質名称：陰イオンの主成分により、さらに次のとおり分類される  
塩化物泉、炭酸水素塩泉、硫酸塩泉

### 特殊成分を含む療養泉

含有物質：② 遊離二酸化炭酸 ~ ⑦ ラドン を含有する療養泉  
泉質名称：さらに次のとおり分類される

- ・特殊成分を含む単純冷鉱泉 例) 単純二酸化炭素冷鉱泉
- ・特殊成分を含む単純温泉 例) 単純二酸化炭素温泉
- ・特殊成分を含む塩類泉 例) 酸性 — ナトリウム — 硫酸塩泉

### 3) 温泉のメカニズム

では、「温泉」はどのようにつくられているのでしょうか。

私たちが入浴している温泉のほとんどは、雨や雪が地中に染み込んで、何年か後に温度や成分などを得て、再び地上に出できた「循環水」と呼ばれています。

温泉は「火山性の温泉」と「非火山性の温泉」に大別でき、非火山性の温泉は「深層地下水型」と「化石海水型」などに分類することができます。

火山性温泉	地表に降った雨や雪の一部が地中にしみ込んで地下水となり、マグマ溜りの熱（1,000℃以上）で温められ、断層等の地下構造や人工的なボーリングなどによって地表に湧き出したものをいう。マグマのガス成分や熱水溶液などが混入したり、流動中に岩石の成分を溶解することなどにより、温泉の様々な泉質が形成されると考えられている。	
	非火山性温泉	深層地下水型 地下では、深度が深くなるほど地温が上昇し、一般的に100mごとに温度が約3℃ずつ上昇すると言われている（地下増温率）。また、マグマが冷えた高温の岩石が地下にあるケースがある（高温岩帯）。降水によりしみ込んだ地下水がこれらの地熱により温められたものをいう。
化石海水型 太古の地殻変動などで古い海水が地中に閉じ込められている場合がある（化石海水）。これらが地表から数百メートルにある場合には、地下増温率によってそれほど高温とはならないが、水温が25℃未満でも、化石海水は塩分を多量に含んでいるので、温泉法で規定した温泉に該当する。		

### 4) 温泉及び温泉地の効果

温泉地の効果	温泉そのもの	物理的効果	温熱	新陳代謝の促進・自律神経の調整。	
			浮力	体重が軽くなり、入浴中の運動が容易になる。	
			水圧	循環器系及び筋肉骨格系の鍛錬。	
	成分効果	泉質により現れる効果。皮膚、皮下組織、筋肉などの細胞に作用すると同時に、神経系にも作用する。			
		変調効果	体内に吸収された温泉成分の刺激や、反復して温泉に入浴することによって受ける刺激によって神経系機能や内分泌機能を調整する。		
	温泉以外の効果因子	転地効果	温泉地へ移動することで地形・気候などの環境が変わり、精神安定作用と鎮静効果。		
		食事効果	規則正しい食事や栄養バランスのとれた食事による効果。		
		運動効果	散歩やジョギングなど適度な運動による効果。		
休養効果		入浴や運動後の休養による効果。			

## 5) 熱海の温泉

西暦757～765年頃、箱根権現の万巻上人が、海中に湧く温泉を熱海の中腹に導き漁民及び魚介類を救おうと祭壇を設け、薬師如来に祈祷し、現在ある間歇泉の地に泉脈を移し、守護神の社（湯前神社）をつくり、一般の人々が温泉の恩恵に浴することができるようにしたことが、熱海温泉の由来と記されています。

戦国の乱世が終わり、天下泰平の時代となった江戸時代には、将軍・大名や武士の支配階級から農民・職人・商人などの庶民にいたるまで、温泉に入浴して病気などを治す湯治が全国的に盛んになりました。江戸に近い熱海温泉には多くの大名が湯治に訪れており、本陣であった今井家の宿帳には、1629（寛永6）年から幕末の1845（弘化2）年までの200年余りの間に、全国の城主65名が来湯した記録が残っています。

明治中期には、平均で1週間滞在していた湯治客は、次第に中産階級の保養客へと性格を変え、宿泊形態も自炊中心から徐々に伺い式・宿賄い式へと食事を提供する形へ変わるようになりました。熱海への交通は1925（大正14）年の国鉄熱海線の全線開通により東京と3時間で結ばれ、近接性が強まりました。大正期には高台の傾斜地等に別荘分譲が広く開発されていました。

昭和初期の熱海温泉鳥瞰図を見ると、町の中心部に3層の有力旅館が立ち並び、すでに海岸部は埋め立てによる土地造成が完成しています。1934（昭和9）年に丹那トンネルが完成し、東海道本線が通るようになると熱海温泉の地位は一層高まり、旅館は95件、宿泊客は33万人を数えました。旅館は3分の2が3階以上の建物となり、収容人員も100人を超えるような大規模化が進みました。同時に温泉の乱開発も著しくなってきたので、熱海町（現在の熱海市）当局は財産区有温泉を中心に16源泉を町有化して温泉供給事業を始めました。



湯前神社

## 6) 熱海温泉の泉質

現在の熱海温泉の泉温は42℃以上の高温泉が全体の約90%を占め、泉質については、塩化物泉が約60%、硫酸塩泉が約30%、単純泉（アルカリ性含む。）が約10%となっており、東海道線を境に海側へ行くほど塩化物泉の源泉が多くなります。また、塩化物イオンが多く含まれているため、塩分が皮膚を覆い、保温効果に優れているので疲労回復はもとより、下記の適応症（温泉療養を行ってよい病気や症状）に効果があります。

### 一般的適応症（泉質を問わず共通する）

- 冷え性、末梢循環障害
- 軽い喘息または肺気腫
- ストレスにおける諸症状
- 胃腸機能の低下
- 痔の痛み
- 病後回復期
- 軽症高血圧
- 軽い高コレステロール血症
- 疲労回復、健康増進
- 糖尿病
- 自律神経不安定症
- 筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり

（関節リウマチ、腰痛症、変形性関節症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫等の慢性期）

### 泉質別適応症

泉質	浴用	飲用*
単純温泉	うつ状態、不眠症	単純温泉については泉質別適応症が定められていません
塩化物泉	きりきず、うつ状態、皮膚乾燥症	萎縮性胃炎、便秘
硫酸塩泉	塩化物泉に同じ	胆道系機能障害、高コレステロール血症、便秘

※市営温泉で供給している温泉は飲用ではありません。

### 禁忌症について

禁忌症とは、1回の温泉入用または飲用でもからだに悪い影響をきたす可能性がある病気・病態のことです。温泉の一般的禁忌症（浴用）は以下のとおりです。

- 病気の活動期（特に熱のある場合）
- 高度の貧血など身体衰弱の著しい時
- 活動性の結核
- 重い心臓・肺・腎臓の病
- 進行した悪性腫瘍
- 消化管出血、目に見える出血
- 慢性の病気の急性増悪期



## 7) 熱海温泉組合と湯前神社秋季例大祭

熱海温泉組合は熱海市街地を中心に、泉・伊豆山・南熱海（多賀・網代）地区に分布する温泉資源の保護と育成のため、大正14年11月23日、静岡県知事より設立認可を受けました。以後約90年の事業実績と150余名の組合員（源泉所有者等）で構成されており、熱海市もその一員となっています。

また、主要な事業は以下のとおりです。

- ① 温泉保護並びに合理的利用の指導
- ② 温泉に関する講演会並びに講習会の開催
- ③ 行政庁の行う調査研究並びに講習会の開催
- ④ 温泉諸申請の行政庁への提出及び意見の上申
- ⑤ 行政庁及び関係団体への建議折衝連絡
- ⑥ 静岡県温泉協会の事業に関する協力
- ⑦ 温泉台帳の整備管理及び温泉に関する必要資料の作成保存
- ⑧ 組合の発展向上に必要な事業及び組合員並びに温泉関係者の表彰等
- ⑨ 温泉組合会報の発行及び温泉調査実態一覧表の作成
- ⑩ 湯前神社振興事業他の実施

この中で、湯前神社秋季例大祭は10月の第1日曜日に開催されます。（前日に宵宮祭）

徳川幕府四代将軍徳川家綱の時代（1667）に大湯の温泉を真新しい桧の湯樽に汲み、それを頑強な男数人が担ぎ、武士の警護の下「御本丸御用」の朱色の日の丸旗をたてて、昼夜兼行で15時間も走り、江戸城へ献上されたといわれています。

その風景から、「熱海よいとこ日の丸たてて 御本丸へとお湯が行く」という唄が生まれました。

その後、湯樽は船で運ばれるようになり、八代将軍徳川吉宗の時代に最盛期を迎え、1726（享保11）年から約10年の間では、3,600樽以上も送ったと伝えられています。



湯前神社秋季例大祭の様子

## 8) 熱海七湯について

熱海に古来からある数多くの源泉の中でもその名を知られ、熱海温泉の歴史で重要な位置を占めてきたのが「熱海七湯」です。当時の様子は江戸時代の様々な資料や文献等により知ることができますが、平成9年に市制60周年事業の一環として、本市の温泉の歴史を築いてきた「熱海七湯」の施設整備を行うことで、湯煙を立ち上らせ、情緒豊かな当時の熱海温泉の再現を図りました。

「熱海七湯」とは、以下七つの湯を指しますが、現在ではいずれも枯渇し、自然湧出泉時代の痕跡はとどめていません。

1. 佐治郎の湯（目の湯）
2. 清左衛門の湯
3. 小沢の湯（平左衛門の湯）
4. 風呂の湯・水の湯
5. 河原湯
6. 野中の湯
7. 大湯



### 1. 佐治郎の湯（目の湯）

昔の仲町、今の銀座町にあった医王寺の門前にあり、佐治郎という者の邸内にあったことから『佐治郎の湯』と言われました。

この湯は、塩分が少なく真湯に近いことから、火傷や眼病によく効くと言われ、別名『目の湯』とも言われています。



昔



現在

## 2. 清左衛門の湯

今の東海岸町、古屋旅館の路傍にあり、菊岡占涼の熱海誌によると、「浜町の北裏天神社の後にあり」と記載されており、昔、農民の清左衛門という者が馬を走らせて、この湯壺に落ちて焼け死んだので、その名がついたと言われていました。

明治までは、昼夜常に湧き出て絶える事がなく、人が大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たと言われていました。現在は整備され、湯煙を上げ温泉の風情が感じられます。



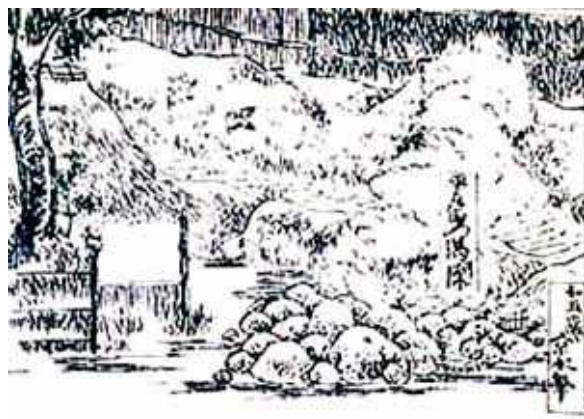
昔



現在

## 3. 小沢の湯 (平左衛門の湯)

昔の小沢町、熱海温泉通りに所在の、沢口弥左衛門、藤井文次郎、米倉三左衛門の庭の湯を『平左衛門の湯』と呼んでいましたが、土地の人は小沢にあったので『小沢の湯』とも呼んでいました。『清左衛門の湯』と同様に、人が大きな声で呼べば大いに湧き、小さな声で呼べば小さく湧き出たと言われていました。現在でも市営温泉としても利用されており、湯煙を上げ温泉の風情が感じられます。



昔



現在

## 4. 風呂の湯・水の湯

福島屋旅館の西側、昔の坂町高砂屋 大木円蔵の庭から湧き出ていました。この湯は外傷によいと言われ、また盛んに上る湯気を利用し、饅頭を蒸したり酒を温めたりして販売していました。1.5mほど東のところには、塩分のない温泉も湧き出ていました。（『水の湯』明治11年大内青巒の『豆州熱海誌』には「淡白無味常水を温める者の如し」と記され、『水の湯』の名の由来が述べられています。

福島屋旅館前にあった石碑は隣接する市有地への移転時に、周辺整備も行なわれて現在に至っています。



昔



現在

## 5. 河原湯

銀座通りを海に下がった国道135号（上り）との交差点辺りのお湯を『河原湯』と称しました。この付近は東浜と言われ、道もなく石がごろごろした河原でありましたが、温泉が絶えず豊富に湧き出ている、熱海村の一般人（農民・漁師・近郷の人々）が自由に入浴できる唯一の温泉入浴場でした。湯治客には『大湯』の源泉が主に使われ、他の源泉も限られた家のみが使用していたからです。

寛文6年（1666）、小田原城主 稲葉美濃守が村民のために浴室を設けて、その屋根を瓦葺としたため『瓦湯』と称したという言い伝えもあります。この湯は、人が入ると透明な湯が白く濁るほど塩分が強く、冷え性や神経痛のリウマチなどに効果があるとされています。



昔

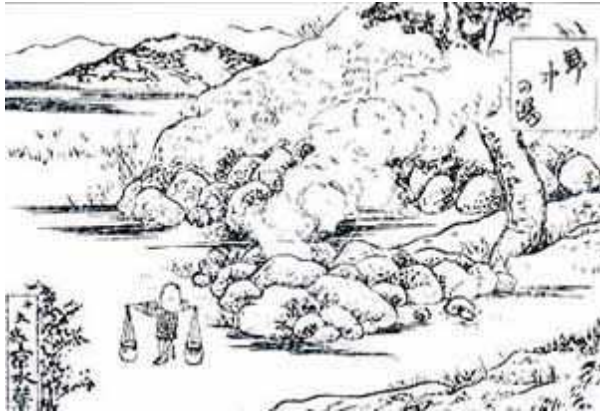


現在

## 6. 野中の湯

熱海の中心部の北、湯前神社の背後にある山を野中山と称しましたが、この麓、野中（現在の藤森稻荷一带）から温泉が湧出していました。この一带は、泥の中に湯がブクブク噴いて、杖で突くと湧き出したと言われていました。また、この土は丹（赤色の土）のようで、壁を塗る高級な壁土として利用されていました。

江戸時代までは、この野中の湯はあまりに高温だったため、入浴には不向きとされていたようです。現在では、咲見町中銀マンションの敷地に「野中湯蒸気温泉」として周辺を整備し、湯けむりが立ち上がっています。



昔



現在

## 7. 大湯

上宿町のニューフジヤホテルアネックスと湯前神社の間にあり、太古からの自噴泉で、世界的にも有名な間歇泉でした。

江戸時代には、熱海温泉の湯元で湯櫛を設け、今井半太夫外20軒が湯屋を営んでいました。大湯の噴出は昼夜6回で、湯と蒸気を交互に激しい勢いで噴出し、地面が揺れるようであったといわれています。そのため危険であると石垣で囲まれ、入り口には鍵が掛けられていました。しかし、明治中頃から次第に噴出は減少し、末頃には止まってしまいました。その後、関東大震災の頃に再び噴出を始めましたが、徐々に噴出回数は減少し、昭和初期に再び止まってしまいました。

昭和37年に熱海市により人工的に噴出する間歇泉が整備され、市の文化財として保存されて現在に至っています。



昔



現在

## 第3章 市営温泉の概要

### 1) 沿革

市営温泉は、昭和11年7月1日に町営温泉として事業許可を受けて発足し、翌年の市制施行と同時に市営温泉としての運営を開始しました。昭和26年には西山地区の私有温泉組合を統合するなど次第に拡充し、昭和32年には「地方公営企業法」を適用、更に昭和34年の機構改革によって公営企業部が設置され、独自の事業を司る体制が確立されました。我が国には温泉が湧出する市町村は数多くありますが、本市のように温泉事業を経営する市町村はごくわずかです。

### 2) 供給区分

令和5年3月現在における市営源泉は59（使用源泉41、休止等源泉18）を数えており、年間840,668m<sup>3</sup>が揚湯され、その約53%にあたる445,118m<sup>3</sup>が1,254件に給湯されています。

市営温泉には、熱海市が独自に掘削したものの他に、買収したもの、寄付を受けたものなどがあり、市が管理している温泉は熱海市温泉条例（昭和48年4月1日施行 条例第3号）に基づいて供給されています。この条例による温泉の供給は、用途では一般家庭で使用する「自家用」、ホテル・旅館等の「営業用」のほか「共同用」、「団体用」があり、種類では「普通供給」と期間を限定し供給を受ける「臨時供給」に分けられています。このうち給湯件数が多いのは「自家用」と「営業用」ですが、大部分は一般家庭、別荘、会社の寮・保養所等であり、ホテル・旅館等は件数では少数ですが供給量は多くなっています。

### 3) 供給区域と受給資格

市営温泉の供給区域は、熱海地区、南熱海地区及び泉地区ですが、この区域内に居住すること、又は家屋、温泉を供給する施設や設備を所有することが温泉供給の条件となっています。

温泉の供給を希望する場合、温泉供給許可申請書を市に提出し、審査による供給決定を受け、供給加入金（この額は用途・種別・容積によって異なる。）の納入後、許可書が交付され、供給装置の設置の後、温泉供給が開始されます。供給は水道と同様に昼夜を通して行われ、計量制により温泉料金の算定が行われます。

#### 4) その他

泉温については、令和5年2月に市営源泉(共有含む、休止等を除く)で測定した38井のうち、最高温度は約93.0℃であり、50℃以上の高温泉が約84%を占めていることから、全国有数の高温泉地域といえます。

最高温度	野村湯	93.0℃
最低温度	泉1号湯	23.0℃

湧出量については、令和5年2月に市営源泉(共有含む、休止等を除く)で測定した38井のうち、70ℓ/分以上の源泉は15井あり、20ℓ/分以下の源泉は3井あります。また、市営源泉全体の平均湧出量は約67.4ℓ/分です。

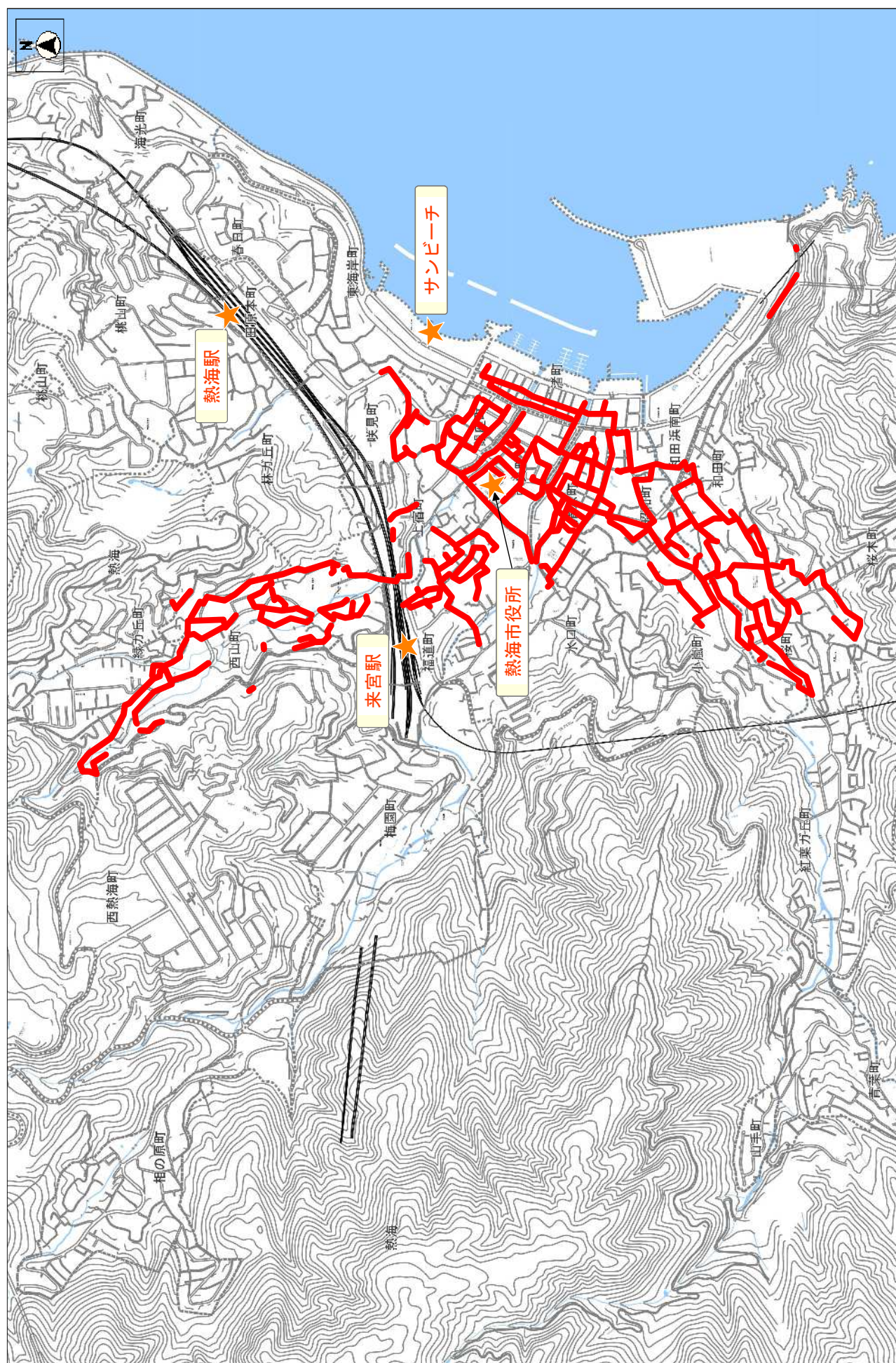
※熱海市の機械揚湯の方式としては、エアリフト方式と水中ポンプ方式があり、令和4年現在ではエアリフト方式のものが約66%を占めています。エアリフト方式とは、圧縮空気を井戸孔へ吹き込み、温泉と空気の混合流体として地表に取り出す方法です。装置が簡単であるため広く普及していますが、空気を送り込むことにより含有物の酸化を生じ、スケール(湯の華)と呼ばれる含有物が揚湯管に付着しやすく効率が悪いと、消費電力が大きいというデメリットもあります。このため、スケールが付着しにくく、かつ騒音や振動の少ない水中ポンプ方式への切り替えを進めています。

最大湧出量	第1和田木湯	180.0ℓ/分
最低湧出量	水の湯	21.0ℓ/分

市営源泉の最高深度は605.9mですが、近年では技術の進歩により1,000mを超える大深度の掘削が可能となりました。1,000mを超える大深度まで降水が浸透するには50年~100年以上という非常に長い時間を要します。熱海の温泉は千年余の間、安定した温泉を供給する泉脈をもっていますが、温泉を末永く利用するためには、無理な揚湯を行わず、涵養源となる地域の保護も必要となります。

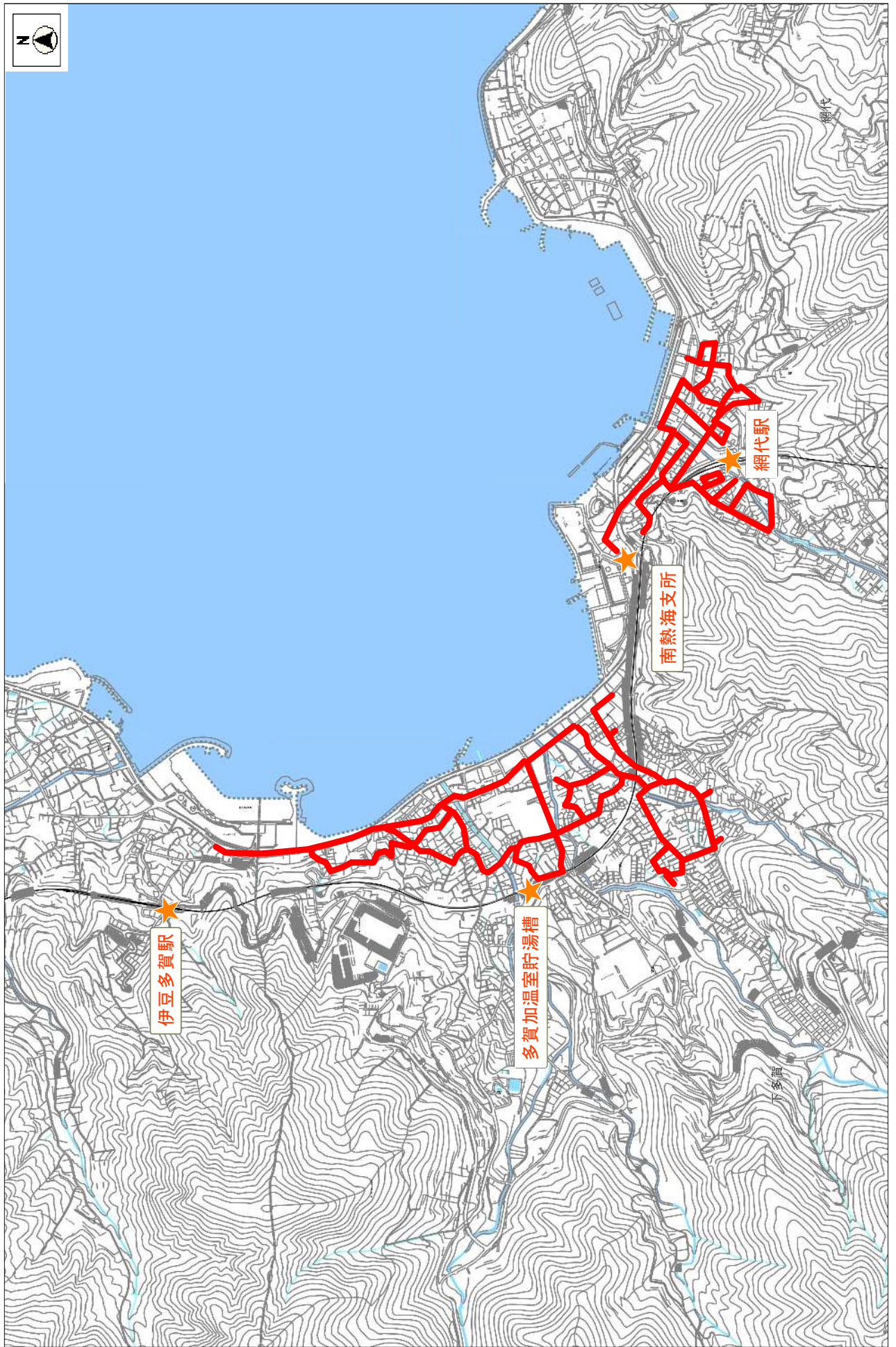
最高深度	第4八幡山湯	605.9m
最低深度	藤井湯	79.4m

# 温泉管路網図（熱海地区）

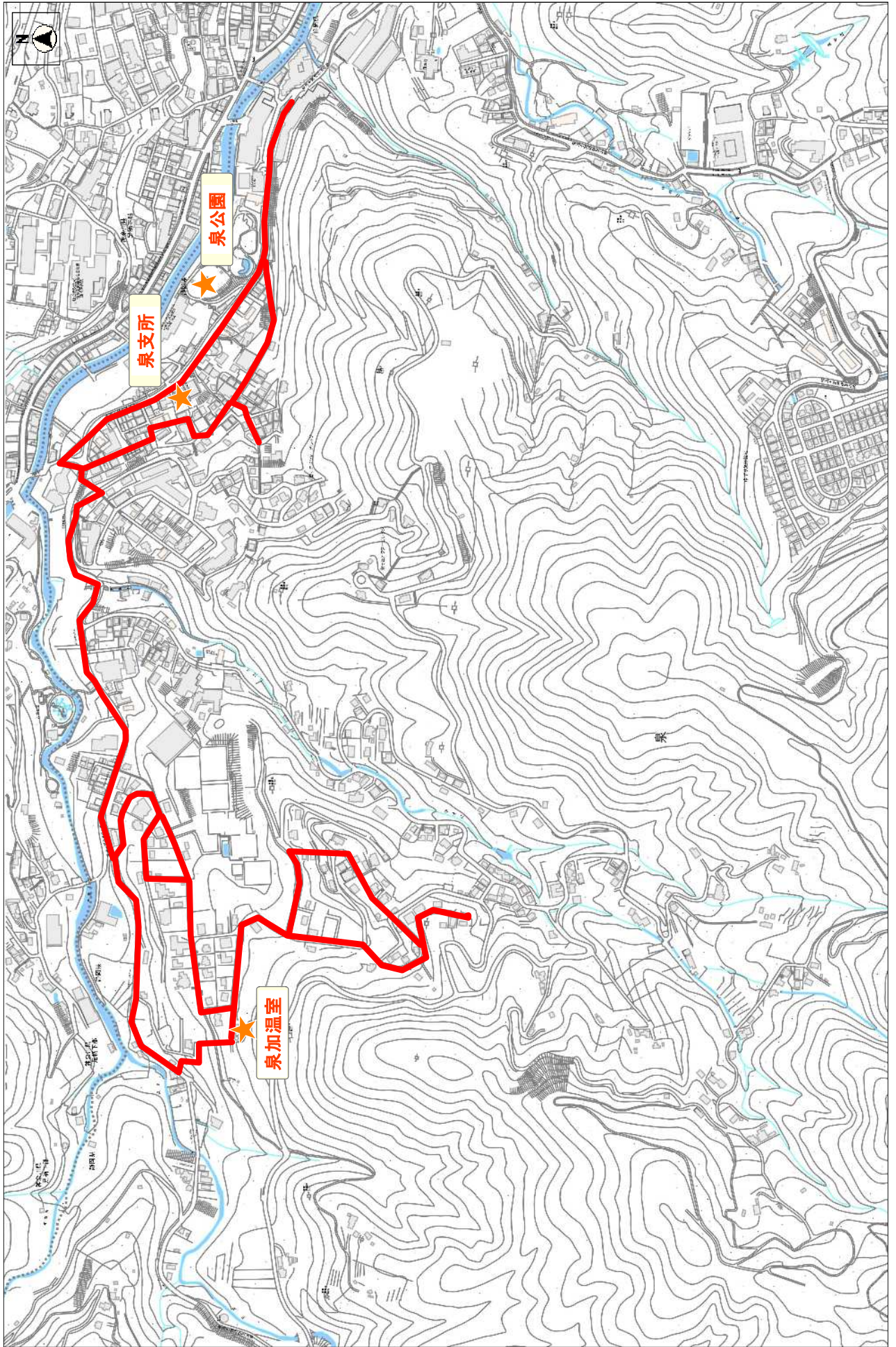




# 温泉管路網図（南熱海地区）



# 温泉管路網図 (泉)



## 第4章 市営温泉施設の概要

### 1) 温泉源地一覧

【熱海地区】

(令和5年2月現在)

源泉名	所在地	温度 (℃)	湧出量 (ℓ/分)	ケーシング径 (A)	動力 (kw)	井戸深さ (m)	備考	
市有	1 青木湯	上宿町 448-9	88.0	60.0	80	3.7	137.0	油冷式コンプレッサ
	2 青沼湯	上宿町 491-3	85.0	30.0	80	3.7	116.2	油冷式コンプレッサ
	3 水の湯	銀座町 340-2	66.0	21.0	80	3.7	115.5	油冷式コンプレッサ
	4 古河湯	咲見町 1999-12	52.0	20.0	80	3.7	149.4	油冷式コンプレッサ 引湯権 3/4
	5 野村湯	上宿町 447-3	93.0	53.0	80	3.7	109.0	油冷式コンプレッサ 引湯権 39/40
	6 小麦田湯	清水町 393-18	58.0	56.0	80	5.5	213.0	水冷式コンプレッサ
	7 大谷湯	水口町 855-2	65.0	86.0	80	5.5	233.5	水冷式コンプレッサ
	8 成瀬湯	上宿町 530-4	79.0	100.0	80	7.5	290.0	水冷式コンプレッサ
	9 第1野中山湯	上宿町 521-4	91.0	78.0	80	7.5	265.0	空冷式コンプレッサ
	10 第4野中山湯	咲見町 2002-80	90.0	68.0	80	7.5	294.9	空冷式コンプレッサ 引湯権 1/2
	11 河原湯	銀座町 356-9	0.0	0.0	80	0.75	129.3	水中ポンプ
	12 第1渚湯	渚町 346-11	51.0	55.0	80	3.7	360.0	水冷式コンプレッサ
	13 釜ヶ根湯	熱海 1993-377	50.0	78.0	80	3.7	493.5	水中ポンプ
	14 第4八幡山	熱海 1992-1	47.0	76.0	80	11.0	605.9	空冷式コンプレッサ
	15 小林湯	昭和町 1262-3	56.0	50.0	100	3.7	364.0	水中ポンプ
	16 第3小嵐湯	桜木町 1961-43	51.0	65.0	80	5.5	495.0	水中ポンプ
	17 第5小嵐湯	桜町 1613-10	64.0	50.0	100	3.7	550.0	水中ポンプ
	18 第6小嵐湯	桜町 1610-3	60.0	90.0	100	3.7	445.7	水中ポンプ
	19 来の宮湯	西山町 586-2	92.0	120.0	80	7.5	255.8	空冷式コンプレッサ
	20 楠湯	西山町 572-13	88.0	77.0	80	7.5	264.0	空冷式コンプレッサ
	21 山田湯	西山町 601-8	79.0	54.0	80	7.5	462.0	空冷式コンプレッサ
	22 西山湯	西山町 635-4	88.0	57.0	80	7.5	431.8	空冷式コンプレッサ
	23 立石湯	西山町 592-3	91.0	66.0	80	7.5	486.0	空冷式コンプレッサ
	24 第2日本鋼管湯	西熱海町1丁目 635-28	86.0	65.0	80	11.0	488.0	空冷式コンプレッサ
	25 長田湯	西山町 2002-43	90.0	67.0	80	7.5	300.0	空冷式コンプレッサ 引湯権 1/2
	26 大槻湯	西山町 629-2	64.0	60.0	100	3.7	600.0	水中ポンプ
共有	27 八方苑湯	水口町 829-19	68.0	76.0	100	3.7	339.0	水中ポンプ 持ち分 1/2
	28 第2野中山湯	咲見町 2002-48	89.0	63.0	100	5.5	194.0	油冷式コンプレッサ 持ち分 6.5/10
	29 第2渚湯	渚町 343-6	45.0	20.0	65	3.7	232.0	水冷式コンプレッサ 持ち分 1/2
	30 曾我湯	小嵐町 1560-3	50.0	57.0	80	3.7	352.0	水中ポンプ 持ち分 8/10
	31 錦館湯	水口町 1051-5	65.0	68.0	100	3.7	294.0	水中ポンプ 持ち分 4/5
借用	32 第2山科湯	清水町 1038-8	60.0	75.0	80	5.5	280.0	水冷式コンプレッサ
	33 一ふじ湯	咲見町 213-14	63.0	92.0	165	7.5	243.2	水冷式コンプレッサ

貸付	34 高校源泉	桃山町 978-1	—	—	—	—	—	—	
	35 第2八幡山	熱海 1990-12	—	—	—	—	—	—	引湯権 3/10
	36 西湯	上宿町 448-10	—	—	80	3.7	132.5	—	引湯権 1/2
休止	37 青山湯	咲見町 488-3	—	—	80	—	845.0	—	平成5年度
	38 米倉湯	上宿町 475-3	—	—	100	—	500.0	—	平成元年度
	39 大倉湯	咲見町 500-2	—	—	80	—	151.0	—	昭和58年度
	40 第3野中山湯	上宿町 545-22	—	—	0	—	694.7	—	昭和53年度
	41 福島湯	銀座町 464-2	—	—	80	—	93.5	—	平成元年度
	42 天神湯	銀座町 316-7	—	—	80	—	125.2	—	平成元年度
	43 第3竹の沢湯	西山町 1761-59	—	—	80	—	570.0	—	平成元年度
	44 藤井湯	上宿町 474-2	—	—	80	—	79.4	—	平成3年度
	45 蜂須賀湯	上宿町 507-3	—	—	80	—	122.0	—	平成15年度
	46 小松湯	咲見町 488-4	—	—	80	—	115.0	—	平成15年度
	47 黄金湯	西山町 575-6	—	—	80	—	366.0	—	平成11年度
	48 第4小嵐湯	桜木町 1619-12	—	—	80	—	450.0	—	平成20年度
	49 坂本湯	咲見町 485-6	—	—	80	3.7	116.5	—	平成26年度
50 米倉湯(共有)	上宿町 475-9	—	—	80	—	88.2	—	平成元年度	
休泉	51 佐治郎湯	銀座町 360-20	—	—	80	3.7	123.5	—	油冷式コンプレッサー 休止
	52 第2竹の沢湯	西山町 1760-3	—	—	65	7.5	360.0	—	水冷式コンプレッサー 休止
廃止	- 第1小嵐湯(共有)	小嵐町 1549-9	—	—	80	11.0	437.0	—	平成23年度11月 廃止
	- 第2小嵐湯	小嵐町 1574-19	—	—	80	11.0	445.7	—	平成30年度2月 廃止

### 【南熱海地区】

	源泉名	所在地	温度 (℃)	湧出量 (ℓ/分)	ケーシング径 (A)	動力 (kw)	井戸深さ (m)	備考
市有	53 第1和田木湯	下多賀 436-8	50.0	180.0	65	5.5	476.0	水中ポンプ
	54 第3和田木湯	下多賀 173-3	39.0	40.0	80	7.5	490.0	水中ポンプ
休止	55 第4和田木湯	下多賀 405-7	—	—	80	11.0	585.0	平成27年度
	56 第2和田木湯	下多賀 464-13	—	—	65	—	499.0	令和3年度

### 【泉地区】

	源泉名	所在地	温度 (℃)	湧出量 (ℓ/分)	ケーシング径 (A)	動力 (kw)	井戸深さ (m)	備考
市有	57 市営泉1号湯	泉 429-14	23.0	120.0	80	5.0	600.0	水中ポンプ
	58 市営泉2号湯	泉 14-12	54.0	97.0	80	11.0	486.0	空冷式コンプレッサー
	59 南湯河原湯2号湯	泉 415-81	41.0	70.0	80	7.5	394.0	空冷式コンプレッサー H30寄附採納

## 2) 貯湯槽一覧

	貯湯槽名	所在地	容積 (m <sup>3</sup> )	構造	築造年度	備考
市街地区	第1野中山	上宿町 558-32	15.0	木製	平成27年度改築	第1野中山湯
	成瀬湯	〃 530-11	5.0	FRP	平成22年度改築	成瀬湯
	熱海1号	〃 474-8	100.0	FRP	平成8年度	青沼湯 青木湯
	熱海13号	〃 807-7	60.0	RC	昭和27年度	
	古河湯	咲見町 1999-10	50.0	RC	昭和46年度	古河湯 第4野中山湯
	熱海2号	〃 245-18	18.0	RC	昭和36年度	※不使用
	熱海10号	福道町 741-2	37.0	RC	昭和16年度	
	狩場	水口町 828-3	30.0	RC	平成13年5月受贈	
	成田山	〃 811-8	35.0	RC	昭和32年度	※不使用
	大谷湯	〃 818-1	57.0	RC		大谷湯
	第2山科湯	清水町 1038-8	3.0	FRP		第2山科湯
	錦館湯	水口町 1051-5	-	RC		錦館湯
	小麦田湯	清水町 393-8	18.0	RC	昭和23年度	小麦田湯
	熱海7号	〃 381-11	45.0	RC	昭和38年度	※不使用
	熱海4号	中央町 866-1	26×2	FRP	昭和53年度	
	熱海8号	〃 866-1	200.0	RC	昭和54年度	野村湯
	河原湯	銀座町 356-6	30.0	FRP	平成17年度改築	河原湯
	熱海12号	〃 316-11	81.0	RC	昭和38年度	※不使用
	渚湯	渚町 346-7	20.0	FRP	平成8年度	第1渚湯 第2渚湯
	小嵐地区	曾我	小嵐町 1560-14	100.0	FRP	平成4年度
第1小嵐湯		〃 1568-4	18.0	FRP	平成25年度改築	※不使用
第2小嵐湯		桜町 1658-8	76.0	RC	昭和40年度	第6小嵐湯 第5小嵐湯
第3小嵐湯		桜木町 1961-35	36.0	RC	昭和35年度	第3小嵐湯
第4小嵐湯		〃 1619-15	5.0	FRP	昭和48年度	※不使用
小林湯		昭和町 1262-32	15.0	FRP	昭和52年度	※不使用
西山地区	来の宮1・2号	西山町 586-1	100/200	RC/FRP	昭和30年度・平成10年度	来の宮湯
	西山新1号	〃 588-5	200.0	FRP	昭和63年度	※不使用
	西山2・3号	〃 606-1	54.0	RC	昭和26年度	山田湯
	西山4号	〃 608-1	54.0	RC		※不使用
	西山5・6号	〃 605-48	83.0	RC	昭和41年度	
	西山7号(その1)	〃 1761-15	50.0	FRP	昭和56年度	第2竹の沢湯(休止)
	西山7号(その2)	〃 1761-15	25.0	FRP	平成12年度	
	西山8号	〃 1763-311	15.0	RC	昭和49年度	※不使用
	西山9号	〃 1763-4	40.0	RC	昭和43年度	
	西山9号県道	〃 1763-29	3.0	FRP	平成12年度受贈	※不使用
	西山10号	〃 635-25	42.0	RC	昭和26年度	西山湯
	西山11号	〃 576-6	10.0	FRP	平成16年度改築	楠湯
	西山12号	〃 575-4	12.0	RC	昭和37年度	※不使用
	大槻2号	〃 629-9	20.0	FRP	平成16年度改築	大槻湯
日本鋼管湯	西熱海町1丁目 635-30	40.0	FRP	平成24年度受贈	日本鋼管湯	
八幡山地区	八幡山	熱海 1992-1	35.0	RC	昭和36年度	
	釜ヶ根	〃 1993-378	15.0	FRP	平成16年度改築	
南熱海地区	第1和田木	下多賀 436-8	19.0	FRP	平成25年度改築	第1和田木湯
	第4和田木	〃 405-7	27.0	RC	昭和38年度	※不使用
	多賀加温室	〃 993-1	100×2	FRP	平成元年度	網代温泉 第1和田木湯
泉地区	泉加温室	泉 415-160	100×2	FRP	昭和49年度	泉1号・2号 南湯河原1号・2号

### 3) 動力室・加温室（動力）一覧

設置場所	設置機器	形式及び性能	用 途
竹の沢動力室 (西山7号貯湯槽)	コンプレッサー	平山HSD62型 No.6531 7.5 kw	第2竹の沢湯揚湯
	ラインポンプ	エバラ 50LPD5.75A 1.5 kw	西山7号～5号配湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 4.0 kw	西山7号循環
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 4.0 kw	西山7号～9号送湯用
西山5号ポンプ室 (西山5・6号貯湯槽)	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	西山5・6号～7号送湯用(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	西山5・6号～7号送湯用(No.2)
西山2号ポンプ室 (西山2・3号貯湯槽)	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-6 5.5 kw	西山2・3号～5・6号送湯用
	ラインポンプ	タカサゴ VMKU φ506E 5.5 kw	西山10号送湯用
来の宮ポンプ室 (来の宮加温室)	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	来の宮湯～西山2・3号送湯用
	ラインポンプ	エバラ 65LPD5.75A 0.75 kw	来の宮湯RC～来の宮湯1号送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 4.0 kw	来の宮湯揚湯用
	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	来の宮湯源泉用
	真空式温水機	日本サーモエナー 2基 ガス	
西山動力室	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	楠湯揚湯用
	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	山田湯揚湯用
	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	立石湯揚湯用
日本鋼管湯	コンプレッサー	三和 3S50AB-P11 11.0 kw	日本鋼管湯揚湯用
	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	西山湯揚湯用
長田湯動力室	コンプレッサー	KOHWA.TEC KNT-75-1 7.5 kw	長田湯揚湯用
大槻湯	水中ポンプ	グルンドフォス SP5A-42 3.7 kw	大槻湯揚湯用
小麦田湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型 No. 5.5 kw	小麦田湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN32-4 7.5 kw	小麦田湯配湯循環用
市街地10号貯湯槽	ラインポンプ	エバラ 50LPD5.75A 0.75 kw	10号貯湯槽～第1野中山貯湯槽
大谷湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型 No.5249 5.5 kw	大谷湯揚湯用
成瀬湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型 No.6218 7.5 kw	成瀬湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-2 2.2 kw	成瀬湯貯湯槽～熱海1号・13号
第1野中山動力室	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	第1野中山湯揚湯用
八方苑湯	水中ポンプ	グルンドフォス SP7-28 3.7 kw	八方苑湯揚湯用
第4野中山湯	コンプレッサー	三和 3S20AB-P7.5 7.5 kw	第4野中山湯揚湯用
第2野中山湯動力室	コンプレッサー	コベルコ CM6PD-5H 5.5 kw	第2野中山湯揚湯用 油冷式
市街地1号動力室	ラインポンプ	グルンドフォス CRN32-1-1 1.5 kw	4～8号送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN32-1-1 1.5 kw	4～8号送湯用
	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	青木湯揚湯用 油冷式
青沼湯動力室	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	青沼湯揚湯用 油冷式
	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	野村湯揚湯用 油冷式

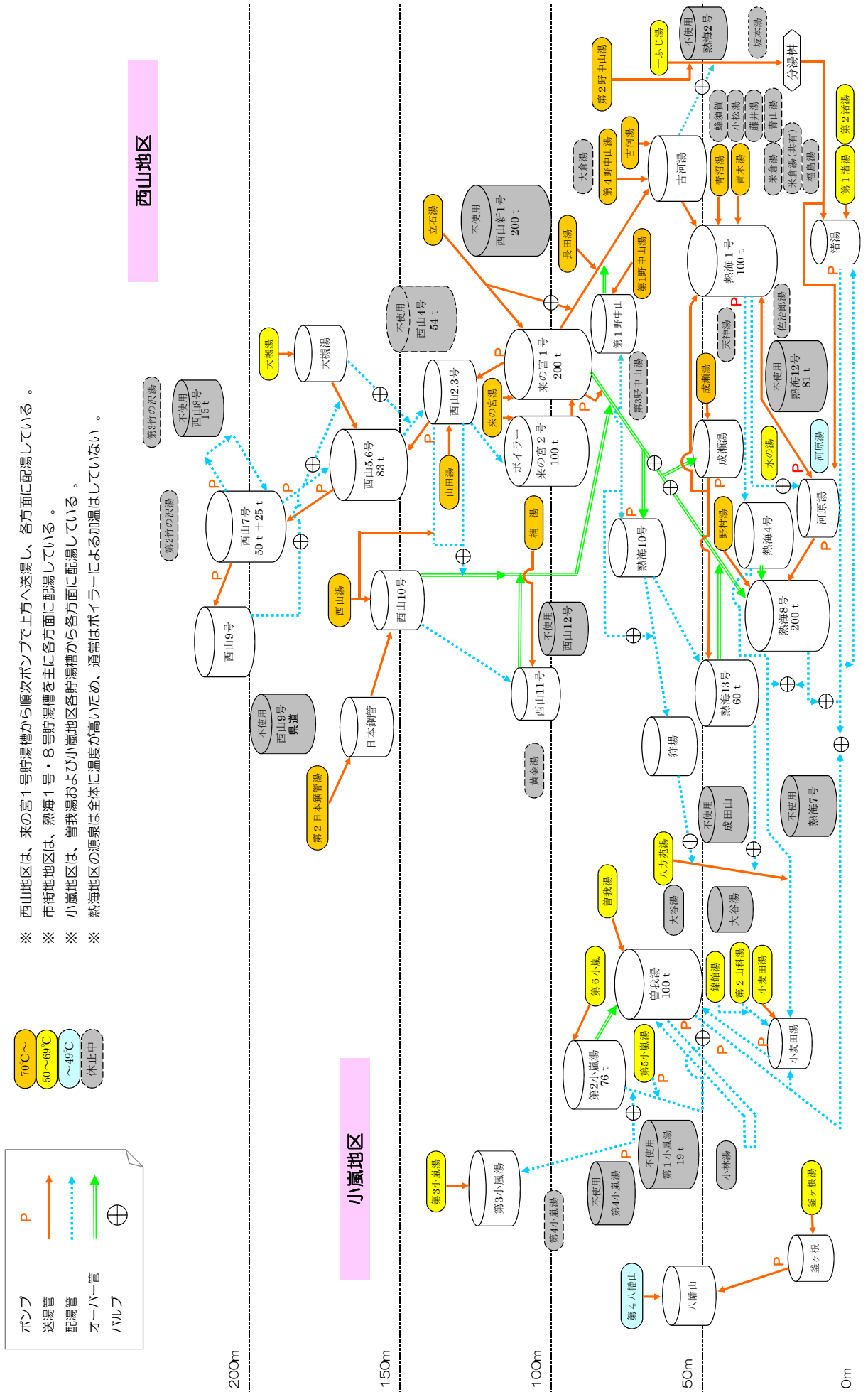
設置場所	設置機器	形式及び性能	用 途
水の湯	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	水の湯揚湯用 油冷式
古河湯動力室	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	古河湯揚湯用 油冷式
第2山科湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型 No.5054 5.5 kw	第2山科湯揚湯用
	ラインポンプ	エバラ 50LPD51.5A 1.5 kw	第2山科湯～小麦田送配湯用
一ふじ湯動力室	コンプレッサー	平山HSD62型 No.6373 7.5 kw	一ふじ湯揚湯用
渚湯動力室	コンプレッサー	平山HSD52型 No.6339 3.7 kw	第1渚湯揚湯用 予備用
	コンプレッサー	コベルコ AS4P-5H 3.7 kw	第1渚湯揚湯用
	コンプレッサー	平山HSD52型 No.4833 3.7 kw	第2渚湯揚湯用
	ラインポンプ	エバラ 50LPD51.5A 1.5 kw	渚湯配湯循環用ポンプ
河原湯	水中ポンプ	グルンドフォス SQE3-55 0.85 kw	河原湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 2.2 kw	河原湯～1号貯湯槽送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 2.2 kw	河原湯貯湯槽～8号貯湯槽送湯用
曾我湯動力室	水中ポンプ	グルンドフォス SP5A-42 3.7 kw	曾我湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-6 5.5 kw	曾我湯～第2小嵐湯貯湯槽送湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN5-10 1.5 kw	曾我湯配湯用
錦館動力室	水中ポンプ	グルンドフォス SP9-19 3.7 kw	錦館湯揚湯用
第3小嵐動力室	水中ポンプ	グルンドフォス SP7-40 5.5 kw	第3小嵐湯揚湯用
第4小嵐動力室	ラインポンプ	グルンドフォス CRN3-10 0.4 kw	第2小嵐湯貯湯槽～第4小嵐湯貯湯槽
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-4 4.0 kw	第4小嵐湯貯湯槽～第3小嵐湯貯湯槽
第5小嵐源地・ポンプ	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-2 2.2 kw	第2小嵐送配湯用
	水中ポンプ	グルンドフォス SP5A-42 3.7 kw	第5小嵐湯揚湯用
第6小嵐源池・ポンプ	水中ポンプ	グルンドフォス SP5A-42 3.7 kw	第6小嵐湯～第2小嵐貯湯槽送湯用
八幡山湯動力室	コンプレッサー	三和 3S50AB-P11 11.0 kw	八幡山湯揚湯用
釜ヶ根動力室	水中ポンプ	岡本ポンプ OPDH4E-40 3.7 kw	釜ヶ根湯揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRT16-6 5.5 kw	釜ヶ根湯貯湯槽～八幡山貯湯槽送湯用
第1和田木湯	水中ポンプ	グルンドフォス SP17-10 5.5 kw	第1和田木湯揚湯用
	配湯用ポンプ	グルンドフォス CRT16-6 5.5 kw	和田木湯循環用
	配湯用ポンプ	グルンドフォス CRN32-2 4.0 kw	第1和田木南支所配湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRT16-8 7.5 kw	第1和田木湯～多賀加温室送湯用
第3和田木湯	水中ポンプ	グルンドフォス SP17-10GS 5.5 kw	第3和田木湯揚湯用
第4和田木動力室	コンプレッサー	平山HSD73型 No.4824 11.0 kw	第4和田木湯揚湯用 休泉
	ラインポンプ	エバラ 50LPD51.5A 1.5 kw	第4和田木地区循環
	温水機	長府ボイラー MG-55LS	55,000kcal/h 灯油 故障不可
和田木加温室	ラインポンプ	グルンドフォス CRT16-4 4.0 kw	和田木神社線循環
	ラインポンプ	エバラ 80LPD51.5A 2.2 kw	和田木本線循環

設置場所	設置機器	形式及び性能	用 途
多賀加温室	タービンポンプ	グルンドフォス CRT16-8 7.5 kw	長浜地区循環用(No.1)
	タービンポンプ	グルンドフォス CRT16-8 7.5 kw	長浜地区循環用(No.2)
	タービンポンプ	グルンドフォス CRT16-6 5.5 kw	中野地区循環用(No.1)
	タービンポンプ	グルンドフォス CRT16-6 5.5 kw	中野地区循環用(No.2)
	加熱循環ポンプ	グルンドフォス CRT16-3 3.0 kw	ボイラー加熱循環用(No.1)
	加熱循環ポンプ	グルンドフォス CRT16-3 3.0 kw	ボイラー加熱循環用(No.2)
	真空式温水機 バルク貯槽	日本サーモエナー 2基 ガス カグラベーパーテック(株) 2基	LPガス供給設備
網代片町ポンプ室	ラインポンプ	グルンドフォス CRT16-8 7.5 kw	網代温泉～和田木加温室送湯用
小山台中継ポンプ室	ラインポンプ	グルンドフォス CRT16-4 4.0 kw	小山台配湯中継ポンプ
泉1号湯動力室	水中ポンプ	DSH6AN×15ST 5.5 kw	泉1号湯揚湯用
泉2号湯	コンプレッサー	三和 3S50AB-P11 11.0 kw	泉2号湯揚湯用
泉動力室	コンプレッサー	KOHWA.TEC KNT-75-1 7.5 kw	組合2号揚湯用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	組合動力室～泉加温室送湯用(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	組合動力室～泉加温室送湯用(No.2)
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	源泉タンク～泉加温室送湯用(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	源泉タンク～泉加温室送湯用(No.2)
泉加温室	オイルギヤーポンプ	エバラ 20GPEM 0.4 kw	
	加熱循環ポンプ	タカサゴ 0655C2.2 2.2 kw	ボイラー加熱循環用
	加熱循環ポンプ	タカサゴ VMK 652E 3.7 kw	ボイラー加熱循環用
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	泉ヶ丘配湯(No.1)
	ラインポンプ	グルンドフォス CRN15-8 7.5 kw	泉ヶ丘配湯(No.2)
	真空式温水機	タクマ KFL-400BH 1基 重油	
	真空式温水機	株日本サーモエナー KFL-400BH 1基 重油	



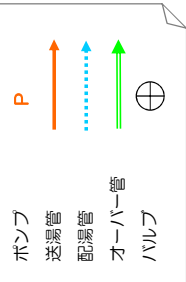
# 4) 主要配管系統図

熱海地区主要配管系統図

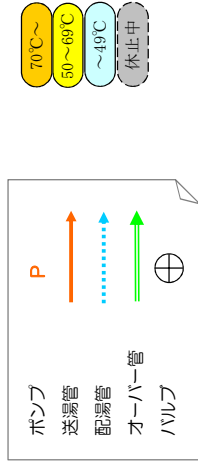


- ※ 西山地区は、来の宮1号貯湯槽から順次ポンプで上方へ送湯し、各方面に配湯している。
- ※ 市街地区は、熱海1号・8号貯湯槽を主に各方面に配湯している。
- ※ 小嵐地区は、曾我湯および小嵐地区各貯湯槽から各方面に配湯している。
- ※ 熱海地区の源泉は全体に温度が高いため、通常はボイラーによる加温はしていない。

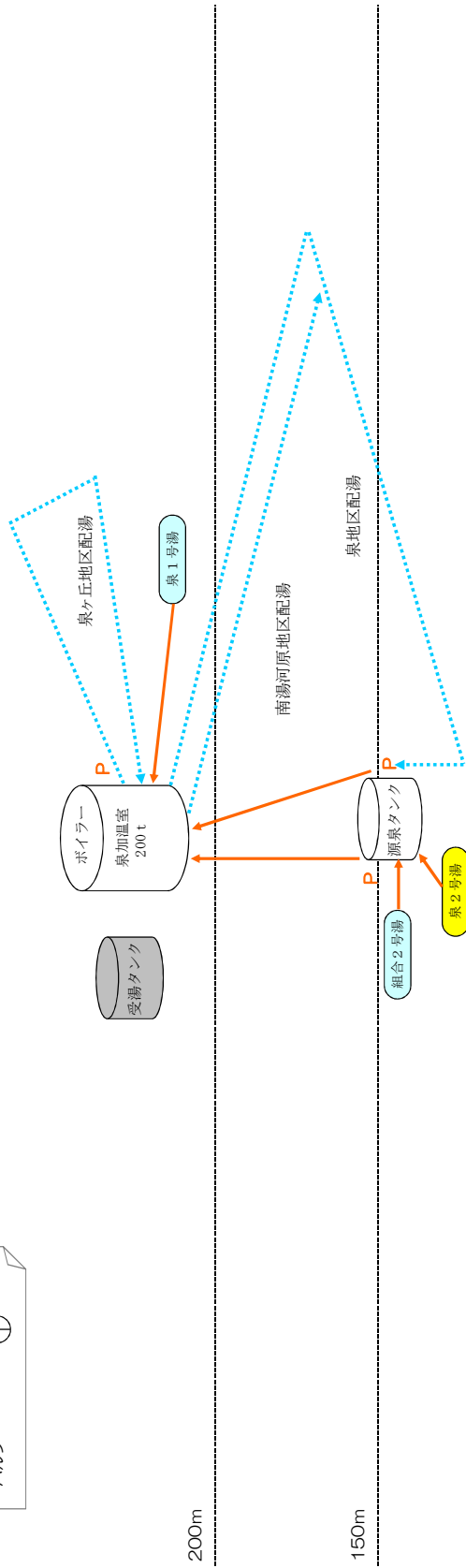
- 70℃～
- 50～69℃
- ～49℃
- 休止中



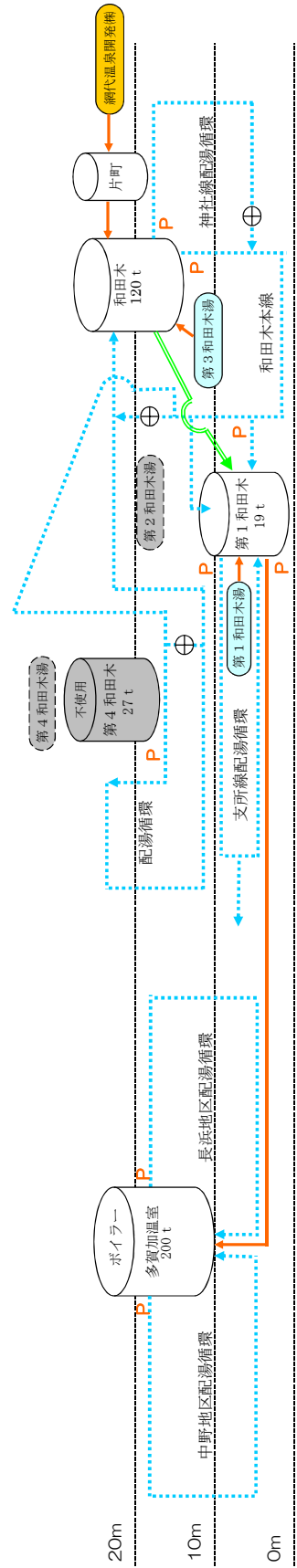
### 泉地区主要配管系統図



- ※ 2源泉を源泉タンクに集めた後、ポンプで泉加温室貯湯槽へ送られる。もう1源泉は泉加温室貯湯槽へ送られる。
- ※ 3源泉分を加温室で加温し、3地区へ配湯している。特に泉1号湯は、温度が非常に低いため加温に要する費用が大きい。



### 南熱海地区主要配管系統図



- ※ 和田木の系統は、網代温泉開発㈱から購入している温泉を主に第1和田木湯と混合し、高温で塩分の強い温泉を配湯している。
- ※ 第1和田木から多賀加温室へポンプで送り、加温して長浜・中野地区へ配湯している。

## 第5章 温泉事業統計

### 1-1) 温泉料金の変遷(昭和25年4月～昭和48年3月)

種類	用途	種別	基本使用量	基本料金						
				昭和25年4月～ 昭和26年10月	昭和26年11月～ 昭和35年9月	昭和35年10月～ 昭和36年3月	昭和36年4月～ 昭和37年3月	昭和37年4月～ 昭和46年3月	昭和46年4月～ 昭和48年3月	
基本料金	普通供給	甲種	40m <sup>3</sup> 以下	250円	325円	741円	917円	972円	1,720円	
		乙種	40m <sup>3</sup> 以下	375円	500円	1,120円	1,380円	1,450円	2,240円	
	普通供給	甲種	60m <sup>3</sup> 以下	600円	800円	1,823円	2,241円	2,400円	—	
		乙種	80m <sup>3</sup> 以下	—	—	—	—	—	4,160円	
			90m <sup>3</sup> 以下	900円	1,200円	2,923円	3,605円	3,828円	—	
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	—	—	—	—	—	6,720円	
	甲種		100m <sup>3</sup> 以下	200円	260円	722円	891円	935円	935円	
	特別供給 (自己温泉送湯量)	短期供給	乙種	100m <sup>3</sup> 以下	300円	400円	1,031円	1,272円	1,336円	1,336円
			100m <sup>3</sup> 以下	750円	2,000円	3,500円	3,500円	5,000円	8,700円	
		特別供給	250m <sup>3</sup> 以下	225円	1,500円	2,800円	2,800円	4,000円	7,910円	
500m <sup>3</sup> 以下			338円	3,000円	5,300円	5,300円	7,500円	13,190円		
501m <sup>3</sup> 以上			450円	5,000円	8,500円	8,500円	12,000円	21,100円		
超過料金(1m <sup>3</sup> につき)	普通供給	甲種	超過使用量	昭和25年4月～ 昭和26年10月	昭和26年11月～ 昭和35年9月	昭和35年10月～ 昭和36年3月	昭和36年4月～ 昭和37年3月	昭和37年4月～ 昭和46年3月	昭和46年4月～ 昭和48年3月	
		乙種	41m <sup>3</sup> ～100m <sup>3</sup>	5.70円	8円	19円	23円	25円	43円	
	普通供給	乙種	41m <sup>3</sup> ～150m <sup>3</sup>	6.00円	10円	28円	35円	37円	56円	
			61m <sup>3</sup> ～ 81m <sup>3</sup> ～	6.80円	9円	23円	29円	30円	—	
		乙種	91m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	7.50円	10円	25円	31円	32円	52円	
			121m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	—	—	—	—	—	56円	
	特別供給 (自己温泉送湯量)	短期供給	甲種	101m <sup>3</sup> ～	2.00円	3円	8円	9円	10円	10円
			乙種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	4.00円	5円	11円	13円	14円	14円
		特別供給	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	4.50円	15円	35円	35円	50円	87円	
			但し、1ヶ月200m <sup>3</sup> を超過できない	4.50円	15円	26円	26円	37円	65円	
特別供給 (自己温泉送湯量)	特別供給	4.50円	15円	26円	26円	37円	65円			
		4.50円	15円	26円	26円	37円	65円			

1-2) 温泉料金の変遷(昭和48年4月～昭和58年11月)

種類	用途	種別	基本使用量	基本料金			
				昭和48年4月～ 昭和49年12月22日	昭和49年12月23日～ 昭和51年3月	昭和51年4月～ 昭和52年3月	昭和52年4月～ 昭和58年11月
基本料金	普通供給	甲種	40m <sup>3</sup> 以下	3,120円	4,720円	7,120円	8,920円
		乙種	40m <sup>3</sup> 以下	3,640円	5,320円	8,040円	10,080円
	団体用	甲種	80m <sup>3</sup> 以下	6,960円	10,640円	16,080円	20,160円
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	10,920円	16,680円	25,200円	31,680円
	自家用	甲種	100m <sup>3</sup> 以下	4,435円	4,800円	5,400円	6,500円
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	4,836円	5,200円	5,800円	7,000円
	臨時供給	甲種	40m <sup>3</sup> 以下	3,740円	5,660円	8,540円	10,700円
		乙種	40m <sup>3</sup> 以下	4,360円	6,380円	9,650円	12,100円
	短期供給	甲種	80m <sup>3</sup> 以下	8,350円	12,770円	19,300円	24,190円
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	13,100円	20,020円	30,240円	38,020円
乙種	100m <sup>3</sup> 以下	5,320円	5,760円	6,480円	7,800円		
乙種	100m <sup>3</sup> 以下	5,800円	6,240円	6,960円	8,400円		
短期供給			100m <sup>3</sup> 以下	12,200円	18,350円	27,720円	34,850円
超過料金(1m <sup>3</sup> につき)	普通供給	甲種	超過使用量	昭和48年4月～ 昭和49年12月22日	昭和49年12月23日～ 昭和51年3月	昭和51年4月～ 昭和52年3月	昭和52年4月～ 昭和58年11月
		乙種	41m <sup>3</sup> ～80m <sup>3</sup>	78円	121円	185円	233円
	自家用	甲種	81m <sup>3</sup> ～	156円	169円	259円	326円
		乙種	41m <sup>3</sup> ～100m <sup>3</sup>	91円	135円	209円	263円
	営業用	甲種	101m <sup>3</sup> ～	182円	189円	293円	368円
		乙種	81m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	87円	135円	209円	263円
	団体用	甲種	561m <sup>3</sup> ～	174円	203円	314円	395円
		乙種	121m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	91円	144円	220円	278円
	自家用	甲種	841m <sup>3</sup> ～	182円	216円	330円	417円
		乙種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	45円	48円	54円	65円
	臨時供給	甲種	1,001m <sup>3</sup> ～	90円	90円	90円	90円
		乙種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	49円	52円	58円	70円
	営業用	甲種	1,001m <sup>3</sup> ～	98円	98円	98円	98円
		乙種	41m <sup>3</sup> ～80m <sup>3</sup>	94円	145円	222円	280円
	団体用	甲種	81m <sup>3</sup> ～	188円	203円	311円	392円
		乙種	41m <sup>3</sup> ～100m <sup>3</sup>	110円	162円	251円	316円
	自家用	甲種	101m <sup>3</sup> ～	220円	227円	351円	442円
		乙種	81m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	105円	162円	251円	316円
	臨時供給	甲種	561m <sup>3</sup> ～	210円	243円	377円	474円
		乙種	121m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	110円	173円	264円	334円
営業用	甲種	841m <sup>3</sup> ～	220円	260円	396円	501円	
	乙種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	54円	58円	65円	78円	
団体用	甲種	1,001m <sup>3</sup> ～	108円	108円	108円	108円	
	乙種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	58円	62円	70円	84円	
短期供給	甲種	1,001m <sup>3</sup> ～	116円	116円	116円	116円	
	乙種	101m <sup>3</sup> ～600m <sup>3</sup>	122円	158円	242円	306円	
短期供給			601m <sup>3</sup> ～	244円	237円	363円	459円

1-3) 温泉料金の変遷(昭和58年12月～平成26年6月)

種類	用途	種別	基本使用量	昭和58年12月～ 平成4年3月	平成4年4月～ 平成9年4月	平成9年5月～ 平成20年3月	平成20年4月～ 平成24年3月	平成24年4月～ 平成26年6月	備考						
基本料金	普通供給	甲種	30m <sup>3</sup> 以下	11,230円	11,566円	11,791円	13,559円	15,186円	H4年4月 一律消費税3%転嫁 H9年5月 一律消費税5%転嫁						
		乙種	30m <sup>3</sup> 以下	12,690円	13,070円	13,324円	15,322円	17,161円							
		甲種	80m <sup>3</sup> 以下	25,730円	26,501円	27,016円	31,068円	34,795円							
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	40,430円	41,642円	42,451円	47,545円	53,249円							
		甲種	100m <sup>3</sup> 以下	—	—	—	8,874円	9,939円							
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	—	—	—	9,550円	10,696円							
		甲種	100m <sup>3</sup> 以下	7,350円	7,570円	7,717円	17,749円	19,878円							
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	7,910円	8,147円	8,305円	19,101円	21,392円							
		甲種	30m <sup>3</sup> 以下	13,660円	14,069円	14,343円	—	—							
		乙種	30m <sup>3</sup> 以下	15,440円	15,903円	16,212円	—	—							
		甲種	80m <sup>3</sup> 以下	30,870円	31,796円	32,413円	—	—							
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	48,520円	49,975円	50,946円	—	—							
超過料金(1m <sup>3</sup> につき)	普通供給	甲種	100m <sup>3</sup> 以下	8,820円	9,084円	9,261円	—	—	平成24年4月～ 平成26年6月						
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	9,500円	9,785円	9,975円	—	—							
		甲種	100m <sup>3</sup> 以下	44,470円	45,804円	46,693円	53,697円	60,139円							
		種別	超過使用量	昭和58年12月～ 平成4年3月	平成4年4月～ 平成9年4月	平成9年5月～ 平成20年3月	平成20年4月～ 平成24年3月	平成24年4月～ 平成26年6月		備考					
		普通供給	自家用	甲種	31m <sup>3</sup> ～70m <sup>3</sup>	298円	306円	312円		476円	533円				
				乙種	71m <sup>3</sup> ～90m <sup>3</sup>	416円	428円	436円		501円	561円				
				甲種	31m <sup>3</sup> ～90m <sup>3</sup>	336円	346円	352円		537円	601円				
				乙種	91m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	470円	484円	493円		567円	634円				
				普通供給	営業用	甲種	81m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	336円		346円	352円		497円	556円	
						乙種	561m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	505円		520円	530円		609円	681円	
						甲種	121m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	355円		365円	372円		510円	571円	
						乙種	841m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	533円		548円	559円		625円	700円	
普通供給	共同用					甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	—	—	—	105円		117円		
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	—	—	—	122円		137円		
						甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	—	—	—	114円		128円		
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	—	—	—	133円		149円		
		普通供給	団体用			甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	74円	76円	77円	210円	235円			
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	102円	105円	107円	245円	275円			
						甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	80円	82円	84円	228円	256円			
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	111円	114円	116円	266円	298円			
				普通供給	自家用	甲種	31m <sup>3</sup> ～70m <sup>3</sup>	358円	368円	375円	—	—			
						乙種	71m <sup>3</sup> ～90m <sup>3</sup>	500円	515円	525円	—	—			
						甲種	31m <sup>3</sup> ～90m <sup>3</sup>	404円	416円	424円	—	—			
						乙種	91m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	564円	580円	592円	—	—			
普通供給	営業用					甲種	81m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	404円	416円	424円	—	—			
						乙種	561m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	605円	623円	635円	—	—			
						甲種	121m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	427円	439円	448円	—	—			
						乙種	841m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	640円	659円	672円	—	—			
		普通供給	団体用			甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	89円	91円	93円	—	—			
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	122円	125円	128円	—	—			
						甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	95円	97円	99円	—	—			
						乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	131円	134円	137円	—	—			
				普通供給	臨時供給 (H20.3まで「短期供給」)	甲種	101m <sup>3</sup> ～600m <sup>3</sup>	391円	402円	410円	621円	696円			
						乙種	601m <sup>3</sup> ～	586円	603円	615円	706円	790円			

1-4) 温泉料金の変遷(平成26年7月～令和5年3月現在)

種類	用途	種別	基本使用量	平成26年7月～ 令和元年12月	令和2年1月～	備考
基本料金	普通供給	甲種	30m <sup>3</sup> 以下	15,620円	15,909円	H26年7月 一律消費税8%転嫁  R2年1月 一律消費税10%転嫁
		乙種	30m <sup>3</sup> 以下	17,651円	17,977円	
	営業用	甲種	80m <sup>3</sup> 以下	35,790円	36,452円	
		乙種	120m <sup>3</sup> 以下	54,771円	55,785円	
	共同用	甲種	100m <sup>3</sup> 以下	10,223円	10,412円	
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	11,001円	11,204円	
	団体用	甲種	100m <sup>3</sup> 以下	20,446円	20,824円	
		乙種	100m <sup>3</sup> 以下	22,003円	22,410円	
	臨時供給			61,858円	63,003円	
	超過料金(1m <sup>3</sup> につき)	普通供給	種別	超過使用量	平成26年7月～ 令和元年12月	
用途						
自家用		甲種	31m <sup>3</sup> ～70m <sup>3</sup>	548円	558円	
		乙種	71m <sup>3</sup> ～	577円	587円	
営業用		甲種	31m <sup>3</sup> ～90m <sup>3</sup>	618円	629円	
		乙種	91m <sup>3</sup> ～	652円	664円	
共同用		甲種	81m <sup>3</sup> ～560m <sup>3</sup>	572円	582円	
		乙種	561m <sup>3</sup> ～	700円	712円	
団体用		甲種	121m <sup>3</sup> ～840m <sup>3</sup>	587円	597円	
		乙種	841m <sup>3</sup> ～	720円	733円	
臨時供給		甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	120円	122円	
		乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	141円	143円	
普通供給		甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	131円	133円	
		乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	153円	155円	
営業用		甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	241円	245円	
		乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	282円	287円	
共同用	甲種	101m <sup>3</sup> ～1,000m <sup>3</sup>	263円	267円		
	乙種	1,001m <sup>3</sup> ～	306円	311円		
団体用	甲種	101m <sup>3</sup> ～600m <sup>3</sup>	716円	729円		
	乙種	601m <sup>3</sup> ～	813円	828円		

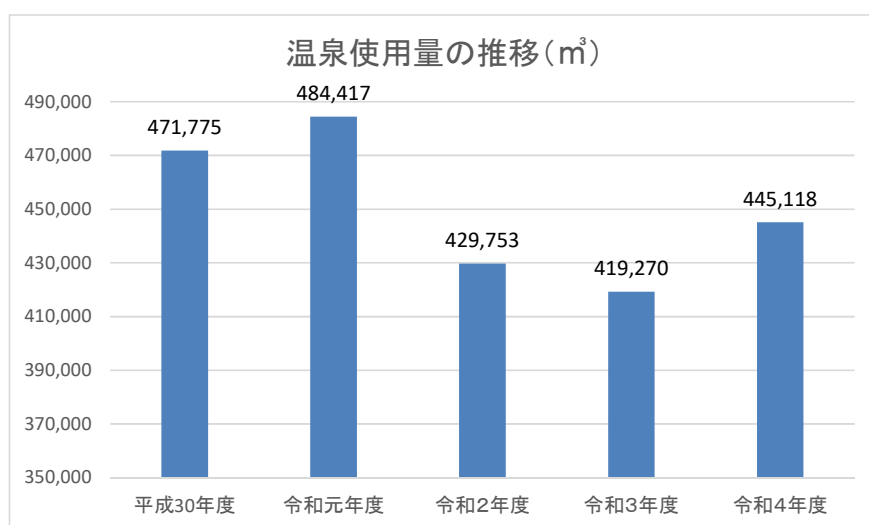
2) 供給加入金の変遷(昭和25年4月～令和5年3月現在)

種類	用途	種別	浴槽容積	(税抜価格)							備考
				昭和25年4月～ 昭和26年10月	昭和26年11月～ 昭和31年3月	昭和31年4月～ 昭和35年3月	昭和35年4月～ 昭和50年3月	昭和50年4月～ 平成20年3月	平成20年4月～		
基本料金 普通供給	自家用	甲種	0.5㎡まで	22,500円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円		
			1.0㎡まで	26,250円	80,000円	160,000円	460,000円	690,000円	690,000円		
		乙種	超過数量1㎡につき	11,250円	35,000円	70,000円	200,000円	300,000円	300,000円		
			0.5㎡まで	30,000円	80,000円	160,000円	460,000円	690,000円	690,000円		
		乙種	1.0㎡まで	49,500円	130,000円	260,000円	750,000円	1,130,000円	1,130,000円		
			超過数量1㎡につき	15,750円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円		
	営業用	甲種	0.5㎡まで	24,750円	100,000円	200,000円	580,000円	900,000円	900,000円		
			1.0㎡まで	29,250円	150,000円	260,000円	750,000円	1,340,000円	1,340,000円		
		乙種	超過数量1㎡につき	13,600円	35,000円	70,000円	200,000円	300,000円	300,000円		
			0.5㎡まで	36,000円	130,000円	300,000円	860,000円	1,170,000円	1,170,000円		
		乙種	1.0㎡まで	58,900円	180,000円	360,000円	1,040,000円	1,630,000円	1,630,000円		
			超過数量1㎡につき	18,000円	50,000円	100,000円	290,000円	430,000円	430,000円		
共同用	甲種	0.5㎡まで	-	-	-	-	-	-	45,000円		
		1.0㎡まで	-	-	-	-	-	-	50,000円		
	乙種	超過数量1㎡につき	-	-	-	-	-	-	-	8,000円	
		0.5㎡まで	-	-	-	-	-	-	-	75,000円	
	乙種	1.0㎡まで	-	-	-	-	-	-	-	95,000円	
		超過数量1㎡につき	-	-	-	-	-	-	-	16,000円	
団体用	甲種	0.5㎡まで	6,000円	6,000円	12,000円	35,000円	45,000円	90,000円			
		1.0㎡まで	7,000円	7,000円	14,000円	40,000円	50,000円	100,000円			
	乙種	超過数量1㎡につき	1,000円	1,000円	2,000円	6,000円	8,000円	16,000円			
		0.5㎡まで	10,000円	10,000円	20,000円	58,000円	75,000円	150,000円			
	乙種	1.0㎡まで	13,000円	13,000円	26,000円	75,000円	95,000円	190,000円			
		超過数量1㎡につき	2,000円	2,000円	4,000円	12,000円	16,000円	32,000円			

※平成18年4月1日から平成21年3月31日まで用途が自家用に限り、10万円減額措置を実施。

### 3) 月別温泉使用量の推移

	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数 (件)	使用量 (m <sup>3</sup> )	件数 (件)	使用量 (m <sup>3</sup> )	件数 (件)	使用量 (m <sup>3</sup> )	件数 (件)	使用量 (m <sup>3</sup> )	件数 (件)	使用量 (m <sup>3</sup> )
4月	1,343	46,404	1,326	43,846	1,310	43,987	1,287	37,031	1,272	39,732
5月	1,343	45,715	1,324	44,000	1,306	43,944	1,284	38,070	1,268	40,255
6月	1,345	40,958	1,326	41,581	1,302	31,038	1,289	36,188	1,270	35,963
7月	1,341	39,519	1,323	39,418	1,299	29,231	1,287	33,689	1,270	34,903
8月	1,340	33,573	1,324	34,784	1,300	28,397	1,284	28,896	1,264	31,544
9月	1,338	32,918	1,319	34,740	1,300	28,518	1,282	28,238	1,266	30,435
10月	1,332	32,275	1,320	32,771	1,299	28,866	1,282	29,063	1,265	30,257
11月	1,331	33,284	1,319	33,081	1,296	30,495	1,277	29,442	1,265	32,375
12月	1,328	37,203	1,317	40,319	1,294	38,860	1,275	33,707	1,255	37,849
1月	1,320	40,129	1,312	43,340	1,293	41,919	1,272	36,634	1,254	41,501
2月	1,320	44,990	1,313	48,411	1,294	43,032	1,274	44,641	1,255	46,165
3月	1,319	44,807	1,311	48,126	1,292	41,466	1,274	43,671	1,254	44,139
合計	-	471,775	-	484,417	-	429,753	-	419,270	-	445,118
前年 比較	-	△6,787	-	12,642	-	△ 54,664	-	△ 10,483	-	25,848





#### 4) 地区別及び用途別使用量

(件数は年度末時点を使用)

		平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度		
		件数 (件)	使用量 (㎡)	構成比 (%)	件数 (件)	使用量 (㎡)	構成比 (%)	件数 (件)	使用量 (㎡)	構成比 (%)	件数 (件)	使用量 (㎡)	構成比 (%)	件数 (件)	使用量 (㎡)	構成比 (%)
熱海地区	自家用	761	89,616	25.2%	753	88,106	23.9%	744	85,342	27.6%	739	79,648	26.4%	723	78,297	24.2%
	営業用	128	244,146	68.6%	132	255,979	69.6%	127	207,800	67.3%	126	209,501	69.6%	128	234,474	72.6%
	共同用	4	9,107	2.6%	4	9,568	2.6%	3	5,652	1.8%	3	4,489	1.6%	3	4,429	1.4%
	団体用	2	6,612	1.9%	2	7,058	1.9%	2	8,981	2.9%	1	7,100	2.4%	1	5,959	1.8%
	臨時短期	1	6,673	1.9%	1	6,391	1.7%	0	879	0.4%	0※	400	0.1%	0	0	0.0%
	計	896	356,154	75.5%	892	367,102	75.8%	876	308,654	71.8%	869	301,138	71.8%	855	323,159	72.6%
南熱海地区	自家用	257	32,817	41.2%	254	31,884	41.0%	250	32,471	39.5%	246	30,324	37.5%	239	28,493	32.0%
	営業用	30	45,710	57.3%	31	44,519	57.3%	30	48,892	59.4%	30	49,363	61.2%	30	59,280	66.8%
	共同用	1	22	0.1%	1	15	0.1%	1	6	0.1%	1	4	0.1%	1	5	0.1%
	団体用	1	1,058	1.3%	1	1,277	1.6%	1	898	1.1%	1	997	1.2%	1	1,006	1.1%
	臨時短期	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	289	79,607	16.9%	287	77,695	16.0%	282	82,267	19.1%	278	80,688	19.2%	271	88,784	20.0%
泉地区	自家用	118	13,237	36.8%	117	13,443	33.9%	119	13,593	35.0%	114	13,511	36.1%	113	13,857	41.8%
	営業用	16	22,777	63.2%	15	26,177	66.1%	15	25,239	65.0%	13	23,933	63.9%	15	19,318	58.2%
	共同用	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	団体用	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	臨時短期	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%
	計	134	36,014	7.6%	132	39,620	8.2%	134	38,832	9.0%	127	37,444	8.9%	128	33,175	7.5%
総合計	自家用	1,136	135,670	28.8%	1,124	133,433	27.5%	1,113	131,406	30.7%	1,099	123,483	0.0%	1,075	120,647	27.1%
	営業用	174	312,633	66.3%	178	326,675	67.4%	172	281,931	65.6%	169	282,797	67.4%	173	313,072	70.3%
	共同用	5	9,129	1.9%	5	9,583	2.0%	4	5,658	1.3%	4	4,493	1.1%	4	4,434	1.0%
	団体用	3	7,670	1.6%	3	8,335	1.7%	3	9,879	2.3%	2	8,097	1.9%	2	6,965	1.6%
	臨時短期	1	6,673	1.4%	1	6,391	1.3%	0	879	0.2%	0※	400	0.1%	0	0	0.0%
	計	1,319	471,775	100%	1,311	484,417	100%	1,292	429,753	100.1%	1,274	419,270	71%	1,254	445,118	100%

※年度中には件数があったが、年度末には0件となった。

## 第6章 財務状況

### 1) 比較損益計算書

(単位:円)

科 目		平成30年度			令和元年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
営業 収益	温泉供給収益	413,164,521	91.5	98.9	411,059,704	91.1	99.5
	受託工事収益	369,492	0.1	105.1	370,991	0.1	100.4
	その他営業収益	7,140,719	1.6	89.5	8,012,657	1.7	112.2
営業 外 収益	受取利息	23,473	0.1	54.9	128,986	0.1	549.5
	供給加入金	20,130,000	4.5	224.7	24,380,000	5.4	121.1
	一般会計からの補助金	4,566,000	1.1	98.9	4,581,000	1.0	100.3
	長期前受金戻入	3,920,356	0.9	108.9	1,999,664	0.4	51.0
	雑収益等	605,920	0.2	118.6	528,863	0.1	87.3
特別利益		0	0.0	-	54,000	0.1	皆増
収益合計		449,920,481	100.0	101.4	451,115,865	100.0	100.3
営業 費用	源地揚湯費	182,717,272	48.9	94.1	217,291,743	58.3	118.9
	送配湯費	42,701,167	11.4	105.2	44,446,758	11.9	104.1
	受託工事費	26,599	0.1	皆増	124,520	0.1	468.1
	総係費	21,126,021	5.7	95.4	23,019,882	6.1	109.0
	減価償却費	118,018,825	31.6	99.0	69,847,533	18.7	59.2
	資産減耗費	5,032,190	1.3	100.1	14,988,983	4.0	297.9
	その他営業費用	15,400	0.1	皆増	0	0.0	皆減
営業 外 費用	支払利息	3,097,443	0.8	81.2	2,485,261	0.7	80.2
	企業債利息	3,097,443			2,485,261		
特別損失		16,929	0.1	皆増	692,260	0.2	4089.2
費用合計		372,751,846	100.0	96.8	372,896,940	100.0	100.0
当年度純利益(△純損失)		77,168,635	-	-	78,218,925	-	-

### 2) 性質別費用構成表

(単位:円)

科 目		平成30年度			令和元年度		
		決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
職員給与費等		12,489,689	3.3	80.1	13,608,766	3.7	109.0
物件 費 等	燃料費	27,540,449	7.4	86.4	52,762,057	14.1	191.6
	光熱水費	17,106,594	4.6	88.5	17,968,750	4.8	105.0
	委託料	77,291,182	20.7	100.0	82,811,413	22.2	107.1
	修繕費	15,690,877	4.2	85.7	14,247,420	3.8	90.8
	動力費	43,812,117	11.8	106.5	43,545,034	11.7	99.4
	材料費・量湯器	27,368,412	7.4	98.7	33,688,294	9.0	123.1
	温泉買上料	13,665,600	3.6	100.0	13,703,040	3.7	100.3
	その他費用	11,621,539	3.1	96.3	12,548,129	3.4	108.0
合計		234,096,770	62.8	97.0	271,274,137	72.7	115.9
内部 留 保 資 金 等	減価償却費	118,018,825	31.6	99.0	69,847,533	18.7	59.2
	固定資産除却費・減耗費	5,032,190	1.3	100.1	14,988,983	4.0	297.9
	過年度修正損	16,929	0.1	皆増	692,260	0.2	4089.2
	合計	123,067,944	33.0	99.0	85,528,776	22.9	69.5
支払利息		3,097,443	0.9	81.2	2,485,261	0.7	80.2
費用合計		372,751,846	100.0	96.8	372,896,940	100.0	100.0

(単位:円)

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
385,821,828	93.9	93.9	386,223,574	88.5	100.1	396,128,026	93.2	102.6
444,427	0.1	119.8	424,784	0.1	95.6	800,038	0.2	188.3
9,351,258	2.3	116.7	9,009,501	2.1	96.3	10,410,355	2.4	115.5
0	0.0	皆減	0	0.0	-	0	0.0	-
6,540,000	1.6	26.8	29,530,000	6.7	451.5	6,160,000	1.4	20.9
4,515,000	1.1	98.6	5,554,500	1.3	12.0	7,537,000	1.8	135.7
3,379,528	0.8	169.0	4,250,807	1.0	125.8	2,887,543	0.7	67.9
797,584	0.2	150.8	1,297,821	0.3	162.7	1,205,781	0.3	92.9
0	0.0	皆減	0	0.0	-	0	0.0	-
410,849,625	100.0	91.1	436,290,987	100.0	106.2	425,128,743	100.0	97.4
183,980,146	50.7	84.7	189,669,767	54.3	103.1	208,736,141	55.7	110.1
62,600,152	17.2	140.8	60,226,056	17.2	96.2	56,501,357	15.1	93.8
298,733	0.1	239.9	168,693	0.0	56.5	0	0.0	皆減
20,457,053	5.5	88.9	20,310,998	5.8	99.3	24,103,456	6.4	118.7
69,290,273	19.1	99.2	69,143,171	19.8	99.8	73,520,064	19.6	106.3
24,155,457	6.7	161.2	8,392,066	2.4	34.7	10,301,346	2.7	122.8
15,400	0.1	皆増	0	0.0	皆減	17,000	0.1	皆増
2,000,166	0.6	80.5	1,647,833	0.5	82.4	1,297,941	0.3	78.8
2,000,166		80.5	1,647,833		82.4	1,297,941	0.3	78.8
0	0.0	皆減	0	0.0	-	274,277	0.1	皆増
362,797,380	100.0	97.3	349,558,584	100.0	96.4	374,751,582	100.0	107.2
48,052,245	-	-	86,732,403	-	-	50,377,161	-	-

(単位:円)

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
15,377,919	4.1	113.0	16,213,469	4.6	105.4	7,595,505	2.0	46.8
28,622,796	7.9	54.2	19,999,011	5.7	69.9	17,620,229	4.7	88.1
13,737,504	3.8	76.5	16,744,882	4.8	121.9	16,963,940	4.5	101.3
82,962,311	22.9	100.2	77,525,178	22.2	93.4	93,309,557	24.9	120.4
25,589,253	7.1	179.6	21,955,378	6.3	85.8	20,944,254	5.6	95.4
36,826,649	10.2	84.6	41,848,388	12.0	113.6	54,010,149	14.4	129.1
40,662,268	11.2	120.7	52,263,114	15.0	128.5	55,009,184	14.7	105.3
13,665,600	3.8	99.7	13,665,600	3.9	100.0	13,665,600	3.6	100.0
9,907,184	2.6	79.0	10,211,277	2.8	103.1	14,335,719	3.7	140.4
251,973,565	69.5	92.9	254,212,828	72.7	100.9	285,858,632	76.3	112.4
69,290,273	19.1	99.2	69,143,171	19.8	99.8	73,520,064	19.6	106.3
24,155,457	6.7	161.2	8,341,283	2.4	34.5	6,205,163	1.7	74.4
0	0.0	皆減	0	0.0	-	274,277	0.1	皆増
93,445,730	25.8	109.3	77,484,454	22.2	82.9	79,999,504	21.4	103.2
2,000,166	0.6	80.5	1,647,833	0.5	82.4	1,297,941	0.3	78.8
362,797,380	100.0	97.3	349,558,584	100.0	96.4	374,751,582	100.0	107.2

### 3) 資本的収支計算書(税抜)

(単位:円)

科 目	平成30年度			令和元年度			
	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	
資本的収入	企業債	20,000,000	39.6	80.0	5,000,000	33.2	25.0
	工事負担金	30,555,556	60.4	皆増	10,045,415	66.8	32.9
	一般会計出資金	0	0.0	皆減	0	0.0	-
	合 計	50,555,556	100.0	168.0	15,045,415	100.0	29.8
資本的支出	職員給与費等	19,846,999	10.1	127.4	20,160,183	12.0	101.6
	工事費	105,813,061	54.0	152.7	83,108,051	49.4	78.5
	材料費	1,427,321	0.7	37.0	2,379,967	1.4	166.7
	委託料	0	0.0	皆減	0	0.0	-
	固定資産購入費	10,371,500	5.3	105.5	7,801,748	4.7	75.2
	その他支出	258,825	0.2	77.4	451,425	0.3	174.4
	建設改良費計	137,717,706	70.3	127.1	113,901,374	67.8	82.7
	企業債償還金	58,340,000	29.7	95.6	54,230,000	32.2	93.0
	合 計	196,057,706	100.0	115.7	168,131,374	100.0	85.8
補てん財源	資本的収支不足額 145,502,150			資本的収支不足額 153,085,959			
	【補填財源内訳】 減債積立金取崩額 58,340,000			【補填財源内訳】 減債積立金取崩額 54,230,000			
	損益勘定留保資金 87,162,150			損益勘定留保資金 98,855,959			

(単位:円)

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
15,000,000	47.2	300.0	10,000,000	100.0	66.7	50,000,000	100.0	500.0
16,803,000	52.8	167.3	0	0.0	皆減	0	0.0	-
0	0.0	-	0	0.0	-	0	0.0	-
31,803,000	100.0	211.4	10,000,000	100.0	31.4	50,000,000	100.0	500.0
15,719,693	7.2	78.0	16,426,420	10.1	104.5	16,403,443	7.6	99.9
131,524,000	60.0	158.3	71,184,984	43.7	54.1	127,694,295	59.0	179.4
1,195,727	0.5	50.2	731,571	0.4	61.2	2,124,868	0.9	290.5
2,660,000	1.3	皆増	0	0.0	皆減	0	0.0	-
14,755,600	6.8	189.1	20,972,367	12.9	142.1	18,737,600	8.7	89.3
252,758	0.2	56.0	335,075	0.3	132.6	687,371	0.4	205.1
166,107,778	76.0	145.8	109,650,417	67.4	66.0	165,647,577	76.6	151.1
52,620,000	24.0	97.0	53,180,000	32.6	101.1	50,670,000	23.4	95.3
218,727,778	100.0	130.1	162,830,417	100.0	74.4	216,317,577	100.0	132.8
資本的収支不足額	186,924,778		資本的収支不足額	152,830,417		資本的収支不足額	166,317,577	
【補填財源内訳】			【補填財源内訳】			【補填財源内訳】		
減債積立金取崩額	52,620,000		減債積立金取崩額	53,180,000		減債積立金取崩額	50,670,000	
損益勘定留保資金	134,304,778		損益勘定留保資金	99,650,417		損益勘定留保資金	115,647,577	

#### 4) 比較貸借対照表(資産の部)

(単位:円)

科 目	平成30年度			令和元年度		
	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
土 地	233,795,655	11.4	102.0	234,195,655	11.3	100.2
建 物	80,202,382	3.9	95.1	76,068,912	3.7	94.8
構 築 物	890,292,023	43.6	103.2	939,079,581	45.2	105.5
機械及び装置	137,510,477	6.7	96.5	137,112,878	6.6	99.7
車両運搬具	1,500,899	0.1	71.4	899,950	0.1	60.0
工具・器具・備品	9,090,599	0.4	172.1	8,471,455	0.4	93.2
建設仮勘定	32,830,000	1.6	85.3	19,400,000	0.9	59.1
有形固定資産計	1,385,222,035	67.7	100.0	1,415,228,431	68.2	102.2
引 湯 権 等	2,802,737	0.1	75.0	1,891,820	0.1	67.5
無形固定資産計	2,802,737	0.1	100.0	1,891,820	0.1	67.5
固定資産計	1,388,024,772	67.8	100.0	1,417,120,251	68.3	102.1
現金預金	590,322,546	29.0	108.9	615,692,959	29.6	104.3
未 収 金	51,517,498	2.6	91.9	35,266,102	1.7	68.5
貯 蔵 品	10,620,128	0.6	142.0	9,032,007	0.4	85.0
流動資産計	652,460,172	32.2	100.0	659,991,068	31.7	101.2
資産合計	2,040,484,944	100.0	100.0	2,077,111,319	100.0	101.8

#### 比較貸借対照表(負債・資本の部)

(単位:円)

科 目	平成30年度			令和元年度		
	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
企 業 債	343,070,000	16.8	90.9	295,450,000	14.2	86.1
引 当 金	69,635,700	3.4	100.0	53,565,774	2.6	76.9
固定負債計	412,705,700	20.2	92.9	349,015,774	16.8	84.6
企 業 債	54,230,000	2.7	93.0	52,620,000	2.5	97.0
未 払 金	25,324,372	1.2	64.5	34,346,869	1.7	135.6
引 当 金	4,751,086	0.2	178.5	21,033,599	1.0	442.7
その他流動負債	19,919,829	1.0	167.3	10,276,444	0.5	51.6
流動負債計	104,225,287	5.1	79.8	118,276,912	5.7	113.5
繰延収益計	54,260,007	2.7	88.8	62,305,758	3.0	114.8
負債合計	571,190,994	28.0	89.9	529,598,444	25.5	92.7
自己資本金等	1,292,364,121	63.3	105.0	1,350,704,121	65.0	104.5
資本金計	1,292,364,121	63.3	105.4	1,350,704,121	65.0	104.5
工事負担金	1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.1	100.0
受贈財産評価額	5,410,415	0.3	634.3	5,410,415	0.2	100.0
資本剰余金計	6,634,643	0.4	108.1	6,634,643	0.3	100.0
減債積立金	34,786,551	1.7	101.0	57,725,186	2.8	165.9
未処分利益剰余金	135,508,635	6.6	113.2	132,448,925	6.4	97.7
利益剰余金計	170,295,186	8.3	100.4	190,174,111	9.2	111.7
剰余金計	176,929,829	8.7	100.5	196,808,754	9.5	111.2
資本合計	1,469,293,950	72.0	104.8	1,547,512,875	74.5	105.3
負債資本合計	2,040,484,944	100.0	99.9	2,077,111,319	100.0	101.8

(単位:円)

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
234,195,655	11.3	100.0	234,195,655	11.0	100.0	234,195,655	11.0	100.0
72,204,165	3.5	94.9	68,586,242	3.2	95.0	65,051,989	3.0	94.8
1,023,639,370	49.3	109.0	1,003,804,120	47.3	98.1	1,083,310,370	50.7	107.9
150,306,246	7.2	109.6	179,193,385	8.4	119.2	214,609,968	10.0	119.8
456,273	0.1	50.7	217,736	0.1	47.7	166,930	0.1	76.7
7,751,320	0.4	91.5	7,832,456	0.3	101.0	7,224,562	0.3	92.2
0	0.0	皆減	27,519,998	1.3	皆増	3,343,068	0.2	12.1
1,488,553,029	71.8	105.2	1,521,349,592	71.6	102.2	1,607,902,542	75.3	105.7
1,261,200	0.1	66.7	630,600	0.1	50.0	0	0.0	皆減
1,261,200	0.1	66.7	630,600	0.1	50.0	0	0.0	皆減
1,489,814,229	71.9	105.1	1,521,980,192	71.7	102.2	1,607,902,542	75.3	105.6
547,189,698	26.3	88.9	549,036,383	25.8	100.3	484,280,462	22.6	88.2
27,984,738	1.3	79.4	37,367,910	1.8	133.5	29,660,826	1.4	79.4
10,152,869	0.5	112.4	14,023,891	0.7	138.1	15,471,896	0.7	110.3
585,327,305	28.1	88.7	600,428,184	28.3	102.6	529,413,184	24.7	88.2
2,075,141,534	100.0	99.9	2,122,408,376	100.0	102.3	2,137,315,726	100.0	100.7

(単位:円)

令和2年度			令和3年度			令和4年度		
決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%	決算額	構成比%	前年比%
257,270,000	12.4	87.1	216,600,000	10.2	84.2	220,700,000	10.3	101.9
55,967,082	2.7	104.5	36,832,038	1.7	65.8	38,507,055	1.8	104.5
313,237,082	15.1	89.7	253,432,038	11.9	80.9	259,207,055	12.1	102.3
53,180,000	2.6	101.1	50,670,000	2.3	95.3	45,900,000	2.1	90.6
16,907,299	0.8	49.2	39,035,627	1.8	230.9	28,543,610	1.3	73.1
3,015,000	0.1	14.3	24,165,070	1.1	801.5	2,018,837	0.1	8.4
17,507,803	0.8	170.4	1,329,695	0.1	7.6	380,660	0.1	28.6
90,610,102	4.3	76.6	115,200,392	5.3	127.1	76,843,107	3.6	66.7
75,729,230	3.7	121.5	71,478,423	3.4	94.4	68,590,880	3.2	96.0
479,576,414	23.1	90.6	440,110,853	20.6	91.8	404,641,042	18.9	91.9
1,404,934,121	67.7	104.0	1,457,554,121	68.7	103.7	1,510,734,121	70.7	103.6
1,404,934,121	67.7	104.0	1,457,554,121	68.7	103.7	1,510,734,121	70.7	103.6
1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.1	100.0	1,224,228	0.1	100.0
5,410,415	0.3	100.0	5,410,415	0.3	100.0	5,410,415	0.3	100.0
6,634,643	0.4	100.0	6,634,643	0.4	100.0	6,634,643	0.4	100.0
83,324,111	4.0	144.3	78,196,356	3.7	93.8	114,258,759	5.3	146.1
100,672,245	4.9	76.0	139,912,403	6.6	139.0	101,047,161	4.7	72.2
183,996,356	8.9	96.8	218,108,759	10.3	118.5	215,305,920	10.0	98.7
190,630,999	9.3	96.9	224,743,402	10.7	117.9	221,940,563	10.4	98.8
1,595,565,120	77.0	103.1	1,682,297,523	79.4	105.4	1,732,674,684	81.1	103.0
2,075,141,534	100.1	99.9	2,122,408,376	100.0	102.3	2,137,315,726	100.0	100.7

## 5)財務分析比較表

比率区分		算式	単位	平成 30年度	平成 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
構成 比率	固定資産 構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}} \times 100$	%	68.02	68.23	71.79	71.71	75.23
	指標の見方	一般的に、比率が低い方が、柔軟な経営が可能とされる。施設型の事業では高い比率となる。						
	自己資本 構成比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{負債資本合計}} \times 100$	%	74.67	77.50	80.54	82.63	84.28
	指標の見方	投資財源を、企業債に頼る時期は比率が低下するが、料金ヘシフトすることにより上昇傾向となる。						
財務 比率	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	%	91.10	88.03	89.14	86.78	89.27
	指標の見方	自己資本がどの程度固定資産へ投下しているか判断する指標。100%超は、企業債を活用した投資状況といえる。						
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	%	626.01	558.00	645.98	521.20	688.95
	指標の見方	短期債務に対する支払能力を示しており、100%を下回る場合、不良債務が発生していることとなる。						
	当座比率	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$	%	615.82	550.37	634.78	509.03	668.82
	指標の見方	短期の負債に対する支払い能力を判断する指標である。分子、分母の大小にも注視する必要がある。						
回 転 率	自己資本回転率	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \div 2}$	回	0.29	0.27	0.24	0.23	0.23
	指標の見方	期中において自己資本に対してどの程度営業収益があったかを判断する指標であり、営業活動の活発度を知ることができる。						
	流動資産回転率	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \div 2}$	回	0.67	0.64	0.63	0.67	0.72
	指標の見方	流動資産が効率的に営業収益へ結びついているか判断するものだが、保有する流動資産の多寡により変動することがある。						
	未収金回転率	$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}}{(\text{期首未収金} + \text{期末未収金}) \div 2}$	回	7.81	9.66	12.50	12.10	12.13
指標の見方	一般的に、この率が高いほど未収期間が短く、早く回収される傾向に有る。							
収 益 率	総資本利益率	$\frac{\text{当年度経常損益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本}) \div 2} \times 100$	%	3.85	3.83	2.31	4.13	2.38
	指標の見方	事業の経常的な収益力を総合的に示す指標であり、この率が高いと総合的な収益性が高いことを意味する。						
	総収支比率	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	%	120.70	120.98	113.24	124.81	113.44
	指標の見方	収益性を見る際の代表的な指標。この率が高いほど経常利益率が高く、100%未満は経常損失が生じたことを示す。						
資金不足比率	$\frac{\text{流動負債} - (\text{流動資産} - \text{翌年度繰越財源})}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$	%	-	-	-	-	-	
実質資金不足比率	$\frac{\text{流動負債} - \text{流動資産}}{\text{営業収益} - \text{受託工事収益}} \times 100$	%	-	-	-	-	-	

◇総資産 = 固定資産 + 流動資産 + 繰延資産

(= 総資本 = 固定負債 + 流動負債 + 繰延収益 + 資本金 + 剰余金)

◇自己資本 = 自己資本金 + 剰余金 + 評価差額等 + 繰延収益

◇当年度出庫貯蔵品 = 期首貯蔵品 + 当年度使用材料額 + 当年度資産減耗額 - 期末貯蔵品

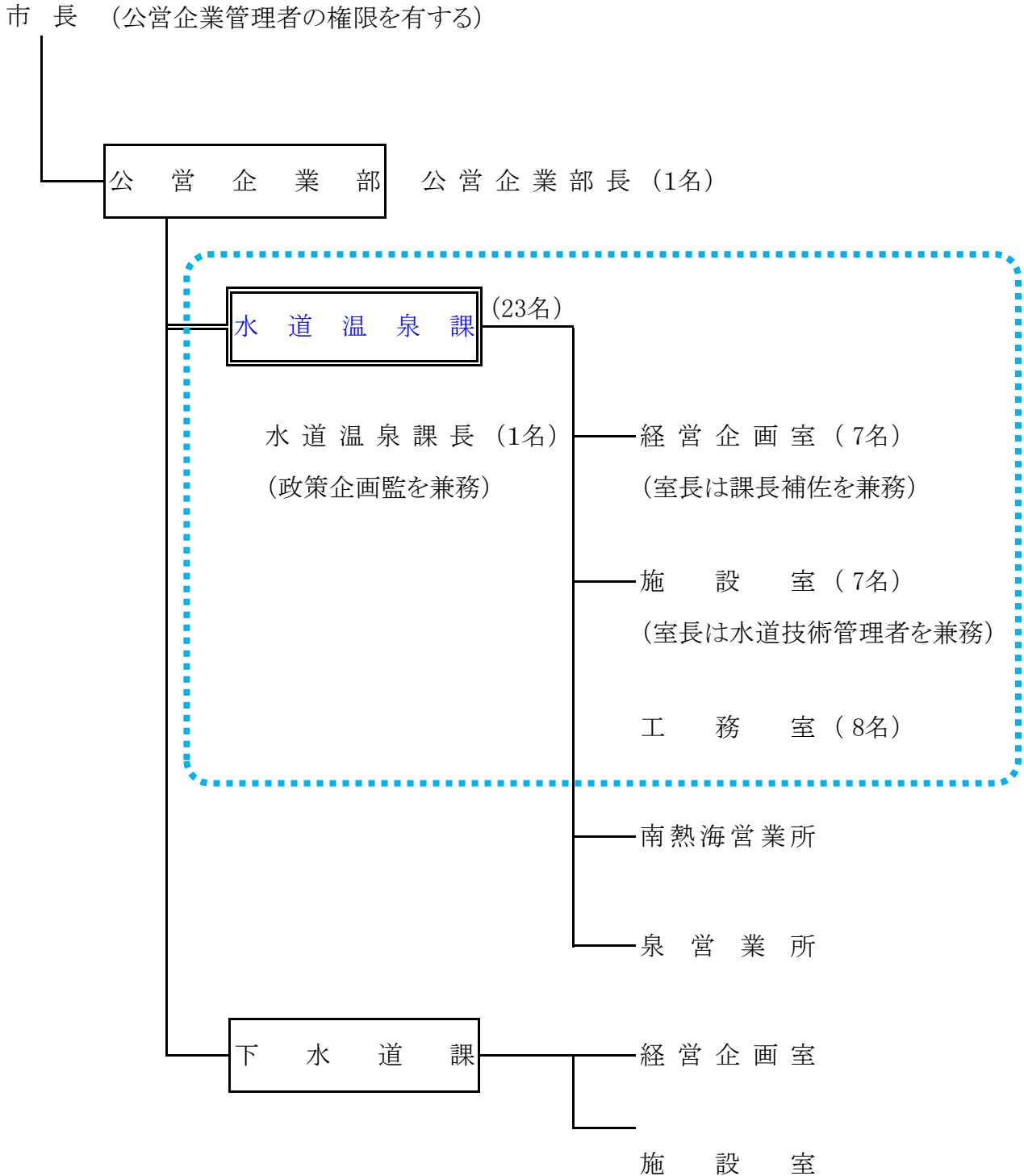


## 6) 業務実績表

区 分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
行政区域内人口	36,848 人	36,437 人	35,721 人	34,973 人	34,301 人
計画給湯人口	15,000 人	15,000 人	15,000 人	15,000 人	15,000 人
現在給湯人口	9,677 人	9,618 人	9,479 人	9,347 人	9,200 人
現在給湯件数	1,319 件	1,311 件	1,292 件	1,274 件	1,254 件
一日温泉湧出能力	3,083 m <sup>3</sup>	3,289 m <sup>3</sup>	3,178 m <sup>3</sup>	3,365 m <sup>3</sup>	3,347 m <sup>3</sup>
一日平均揚湯量	2,358 m <sup>3</sup>	2,478 m <sup>3</sup>	2,438 m <sup>3</sup>	2,578 m <sup>3</sup>	2,303 m <sup>3</sup>
年間揚湯量	860,598 m <sup>3</sup>	906,911 m <sup>3</sup>	889,943 m <sup>3</sup>	940,861 m <sup>3</sup>	840,668 m <sup>3</sup>
一日平均配湯量	2,646 m <sup>3</sup>	2,766 m <sup>3</sup>	2,726 m <sup>3</sup>	2,866 m <sup>3</sup>	2,591 m <sup>3</sup>
年間総配湯量 A	965,718 m <sup>3</sup>	1,012,319 m <sup>3</sup>	995,063 m <sup>3</sup>	1,045,981 m <sup>3</sup>	945,788 m <sup>3</sup>
年間総有収湯量 B	471,775 m <sup>3</sup>	484,417 m <sup>3</sup>	429,753 m <sup>3</sup>	419,270 m <sup>3</sup>	445,118 m <sup>3</sup>
有収率 B/A	48.9 %	47.9 %	43.2 %	40.1 %	47.1 %
送配湯管布設延長	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m	64,785.9 m
職員数	5 人	5 人	5 人	5 人	4 人
損益勘定所属職員数 C	2 人	2 人	2 人	2 人	1 人
職員一人当給湯量 B/C	235,888 m <sup>3</sup>	242,209 m <sup>3</sup>	214,877 m <sup>3</sup>	209,635 m <sup>3</sup>	445,118 m <sup>3</sup>
供給単価(1m <sup>3</sup> あたり)	865円71銭	838円90銭	887円07銭	910円37銭	879円89銭
給湯原価(1m <sup>3</sup> あたり)	781円70銭	763円97銭	835円64銭	823円19銭	834円81銭

# 第7章 組織及び職員

## 1)職員機構図 (令和5年4月1日 現在)



— 令和4年度版 —

熱海市温泉事業のあらまし

令和5年10月 発行

編集・発行 熱海市 公営企業部 水道温泉課  
協力 熱海温泉組合